

2021 年 11 月

食料安全保障月報 (第 5 号)



令和 3 年 11 月 30 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2021 年 11 月食料安全保障月報（第 5 号）

目 次

概要編

I	2021 年 11 月の主な動き	1
II	2021 年 11 月の穀物等の国際価格の動向	3
III	2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント	3
IV	2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	3
V	今月の注目情報 米国の生産・輸出動向	4

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	8
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	9
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	10
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	12
5	FAO 食料価格指数の推移	16
6	食品小売価格の動向	17

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2022/23 年度の冬小麦の播種進捗率が 94%
	＜カナダ＞	輸出価格は一時 2014 年以降最高の 432 ドル/トンに上昇
	＜豪州＞	2021/22 年度の収穫が開始、史上第 3 位の豊作見込み
	＜EU＞	2022/23 年度の冬小麦の播種が進展、発芽も開始
	＜中国＞	天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し
	＜ロシア＞	生産量は単収の上昇により前月に比べ 2.0 百万トン上方修正
2	とうもろこし	8
	＜米国＞	収穫面積増、単収上方修正で生産量史上第 2 位、輸出減の見通し
	＜ブラジル＞	収穫面積増、単収増で生産量史上最高の見通し
	＜アルゼンチン＞	面積上方修正で生産量史上最高、輸出税は継続
	＜中国＞	収穫面積増、単収増で生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し
3	コメ	13
	＜米国＞	史上最高の単収により生産量が上方修正
	＜インド＞	消費量の下方修正などにより期末在庫量が史上最高
	＜中国＞	輸入量が上方修正
	＜タイ＞	作付面積拡大予測の一方で洪水が発生
	＜ベトナム＞	秋冬作の収穫が始まるもコメ価格が高止まり

Ⅱ	油糧種子	
	大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
	＜米国＞	単収下方修正も生産量は史上第2位、輸出減の見通し
	＜ブラジル＞	収穫面積増で生産量は史上最高の見通し
	＜アルゼンチン＞	収穫面積は下方修正も増産見通し、輸出税は継続
	＜中国＞	収穫面積減で減産見通し、輸入量は1億トン
	＜カナダ＞	西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【利用上の注意】

表紙写真：米国アイオワ州のとうもろこしの収穫（10月21日撮影）。

(概要編)

I 2021 年 11 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2021/22 年度の作況については、北半球はほぼ確定しつつあるが、これから収穫・作付けが行われる南半球は今後も変動する可能性。

品目別にみると、11 月の米国農務省 (USDA) の需給報告では、小麦については、生産量は史上最高となるものの、米国やカナダの減産に加え、世界の期末在庫量が下方修正されたこと等から、国際相場は高い水準で推移しており今後も注視が必要。

一方、大豆・とうもろこしについては、生産量が消費量を上回ると予想され、相場も史上最高水準にまで迫った 5 月頃と比較すれば一段落した感があるものの、期末在庫は依然としてタイトな状況であり、南半球の状況を中心に引き続き注視していく必要。

FAO (国連食糧農業機関) が公表している食料価格指数については、穀物及び植物油の上昇の影響を受け 3 か月連続で上昇し、最新値 (10 月) は 2011 年 7 月以来の最高値を記録。

海上運賃については、10 月以降、バルチック海運指数 (穀物輸送に主に使用される外航ばら積み船の運賃指数) は下落傾向が見られるものの、引き続き高い水準を維持。

早期注意段階の継続について

現状において、我が国の食料の安定供給に懸念は生じていないものの、上記の状況を踏まえ、2021 年 7 月から適用を開始した、緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、11 月も引き続き適用。

【参考】早期注意段階について (農林水産省 HP)

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



1 ブラジルの大豆の作付けが順調に進展

9月以降、降雨に恵まれ、11月中旬には、大豆主産地の中西部のマット・グロッソ州では作付けが終了した。夏とうもろこしも主産地の南部のパラナ州では、11月上旬時点で作付けが概ね終了した。作付けは概ね順調である。ブラジル食料供給公社（CONAB）の11月レポートでは、穀物、油糧種子全体で2億8,980万トン、うち大豆が1億4,200万トン、とうもろこしは夏冬計で1億1,670万トンの生産見通しである。

写真：ブラジル マット・グロッソ州の大豆
天候に恵まれ順調に発芽(11月6日撮影)



なお、穀物輸送を担っている個人トラック運転手のストライキが燃料費の高騰から11月1日から計画されていた。しかし、例えば、ブラジリア連邦区では、燃料への商品サービス流通税（ICMS）の課税を90日間凍結するなど、燃料費高騰の緩和措置を行うことと引き換えに、連邦政府が法的措置でストライキ防止策を講じたことから、穀物輸送には大きな影響は出なかったとみられる。

2 ウクライナの豊作と小麦の輸出上限数量の設定

2021/22年度の小麦、とうもろこし等の収穫が終了した。天候に恵まれたことから、穀物・油糧種子全体で1億トンを超える穀物の収穫が見込まれている。USDAの11月見通しでは、特に冬作が中心の小麦は史上最高の3,300万トン、とうもろこしも史上最高の3,800万トン、大麦も過去10年では最大の1,020万トンの生産量が見込まれている。

小麦については、10月19日に2021/22年度の輸出上限数量は2,530万トンで政府と穀物関係業界が合意した。前年度の1,750万トンと比較して小麦の豊作を受け大幅に増枠となった。一方、とうもろこしについてはまだ公表されていないが、輸出量は中国向けを中心に大きく増加するとみられ、USDAの11月見通しでは輸出量は3,150万トンと見込まれている。

3 インドの増産、輸出増とコメ（インディカ種）の国際価格の下落

USDAの11月見通しによれば、2021/22年度のコメの生産量は、降雨に恵まれ、史上最高の1億2,500万トンと見込まれている。これを受け、輸出量は過去最高の前年度の2,000万トンに続き、2021/22年度も1,900万トンが見込まれている。豊富な生産量と輸出余力から、インド産米の輸出価格は、他の東南アジアの輸出国と比べて価格競争力があるため、サブサハラ・アフリカ諸国向け輸出も増加している。

この結果、タイ産米（インディカ種）の国際価格も、インド産米の低価格での輸出に加え、10月のタイ北東部の降雨や、コンテナ運賃の高騰などの要因もあり、本年の前半と比べて小麦などの他の穀物と異なり下落している。

Ⅱ 2021 年 11 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、10月末、280ドル/トン台前半で推移。11月に入り、旺盛な輸入需要により一時290ドル/トン台前半に上昇したものの、ドル高や米国産春小麦相場の下落から280ドル/トン台前半に値を下げた。その後、USDAの11月需給報告で世界の小麦在庫量が下方修正されたことやロシアの輸出規制強化の懸念による供給逼迫感、旺盛な輸入需要から値を上げ、11月下旬現在、300ドル/トン台前半で推移。

とうもろこしは、10月末、220ドル/トン台前半で推移。11月に入り、原油相場の下落や南米の順調な作付け進展等から210ドル/トン台後半まで値を下げた。その後、米国の収穫が無事に終盤を迎えたことで上値は抑えられたものの、小麦や大豆価格の上昇に追随し値を上げ、11月下旬現在、220ドル/トン台半ばで推移。

コメは、10月末、410ドル/トン台後半で推移。11月に入り、バーツ安により410ドル/トン台前半まで値を下げた後、バーツ高により11月中旬にかけて410ドル/トン台後半まで値を上げ、12月に新穀が市場に出回るのを待つ姿勢が強く、その後横ばいで推移し、11月下旬現在も410ドル/トン台後半で推移。

大豆は、10月末、450ドル/トン台半ばで推移。11月に入り、原油相場の下落や南米の順調な作付け進展等から430ドル/トン台前半まで値を下げた。その後、米国の収穫が無事に終盤を迎えたことで上値は抑えられたものの、USDAの11月需給報告で米国大豆の単収予測の想定外の下方修正や大豆圧搾高の伸び、小麦や大豆粕価格上昇への追随により値を上げ、11月下旬現在、460ドル/トン台半ばで推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、米はタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 550 万トン上方修正され 27.9 億トン。消費量は、前月から 390 万トン上方修正され 27.9 億トン となり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り 28.4%となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月予測から、小麦で下方修正、とうもろこし、コメで上方修正され、穀物全体で上方修正され 27.9 億トンの見込み。

消費量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで上方修正、コメで下方修正され、穀物全体で上方修正され 27.9 億トンの見込み。

貿易量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで上方修正、コメで下方修正され、5.0 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.9 億トンと前月予測から上方修正、期末在庫率は前月から上方修正された。

(注：数値は 11 月の USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

Ⅳ 2021/22 年度の油糧種子需給(予測)のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.3 億トン。消費量は前年度を上回り 6.2 億トン となり、生産量が消費量を上回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を上回り、18.5%となる見込み。

(注：数値は 11 月の USDA「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

V 今月の注目情報：米国の生産・輸出動向

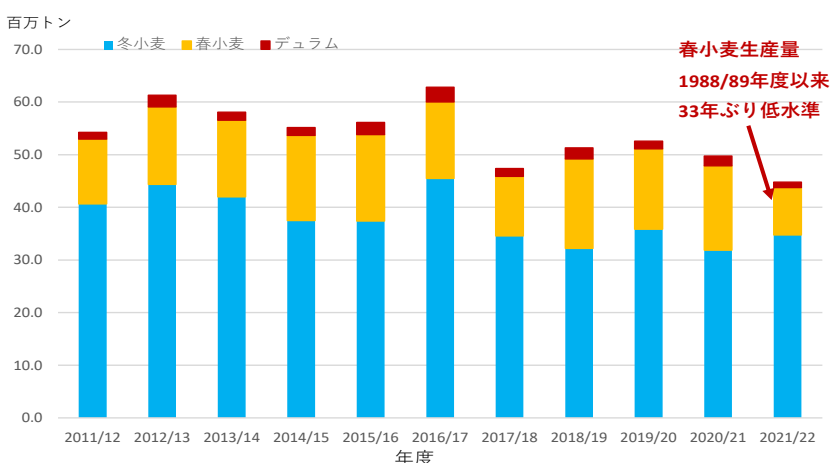
米国の2021/22年度のとうもろこし、大豆の収穫は終盤を迎え、とうもろこし、大豆ともに史上2番目の生産量が見込まれている。一方、収穫がすでに終了している小麦は、春小麦が高温乾燥の影響を受け、前年度より1割減産となり、2022/23年度の冬小麦の生育も一部で乾燥の懸念がある。一方、とうもろこし、大豆の期末在庫率は、多少改善したものの、原油価格の高騰によるとうもろこし、大豆のバイオ燃料向け需要の増加もあり、依然低水準である。最近の米国の状況をまとめた。

1 生産動向

(1) 小麦：春小麦が高温乾燥の影響を受け、小麦全体で18年ぶりの低水準

米国農務省(USDA)の11月見通しによれば、2021/22年度の収穫は終了した。冬小麦は前年度より増産の3,480万トンとなったが、春小麦・デュラム小麦は、高温乾燥の影響を受け、大幅に減産となった。デュラム小麦を除く春小麦は1988/89年度以来33年ぶりの低水準の900万トン、デュラム小麦は1961/62年度以来60年ぶりの低水準の100万トンとなり、合計で対前年度

図1 小麦の生産量の推移。小麦全体では18年ぶりの低水準



比10%減の4,480万トンの見通し。資料：USDA「Crop production」(2021.11)を農林水産省で加工
これは2002/03年度以来18年ぶりの低水準となった。

なお、2022/23年度の冬小麦については、11月14日時点で、作付進捗率が94%と概ね終了し、発芽進捗率は81%となっており、今後休眠期を迎えるとみられる。米国北部では、土壌水分不足による懸念があるものの、他の地域ではおおむね生育状況は良好とみられる。

(2) とうもろこし：史上2番目の豊作

収穫は11月中旬現在で終盤を迎えており、USDAの11月見通しによれば、2021/22年度は、北西部で高温乾燥の影響はあったものの、主産地は天候に恵まれ、単収は史上最高の11.11トン/ヘクタールとなり、生産量も前年度より6.7%増で、過去最高の2016/17年度に次ぐ3億8,260万トンとなる見通しである。

(3) 大豆：史上2番目の豊作

とうもろこしと同様に、収穫は終盤を迎えており、同11月見通しによれば、2021/22年度は、北西部で高温乾燥の影響はあったものの、主産地は天候に恵まれ、生産量も前年度より4.9%増で、過去最高の2018/19年度に次ぐ1億2,040万トンとなる見通しである。

2 国内需要と輸出動向

(1) 小麦需要は増加、価格は上昇

小麦は、飼料用需要の増加に加え、価格高騰による 2022/23 年産の作付意欲の増加により、種子用需要が増加し、全体で 3.9%増加する見通しである。

また、小麦価格の上昇に伴い、小麦加工品の価格も上昇している。USDA「Wheat Outlook」(2021.11)によれば、2021年9月の小麦粉の製粉工場出荷価格は前年9月より28%上昇しており、パンなどの小麦加工品の小売価格は同時期で2～4%上昇している。なお、食品全体の小売価格は同時期と比較すると4.6%上昇しており、小麦価格の上昇よりは肉や卵製品の価格上昇分の寄与度が大きいとしている。なお、2021年10月のHRS(ハードレッドスプリング)のPNW(太平洋北西岸)からの輸出価格は前年10月の290ドル/トンから427ドル/トンへ46%上昇している。

(2) とうもろこし、大豆のバイオ燃料向け需要増

とうもろこしは、夏以降のとうもろこし価格の下落に加え、最近の原油価格高騰に伴うガソリン価格の上昇で、ガソリンへのバイオ燃料の混合に関するエタノール生産のマージンの高まりなどから、USDAの11月見通しで、2021/22年度のバイオ燃料向け需要が上方修正された。前年度と比較し、バイオ燃料向け需要は4.4%増と大きく拡大し、とうもろこし全体で需要量は2.2%増加の見通しである。

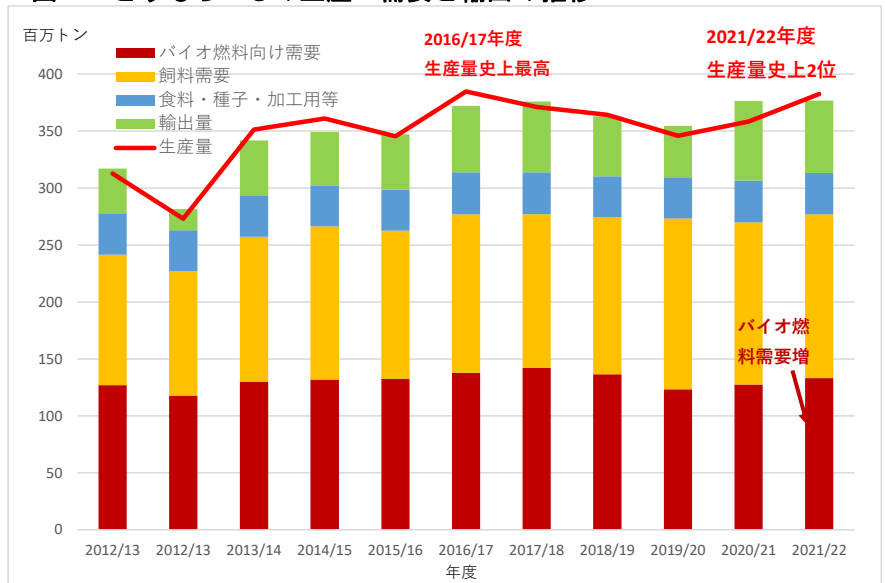
大豆も、2021/22年度の搾油量は2.3%増加し、大豆油のバイオ燃料向け需要は24%増加する見通しである。

(3) 輸出の減少

USDAの11月見通しによれば、2021/22年度の小麦、とうもろこし、大豆の輸出量は、前年度より減少し、それぞれ、2,340万トン、6,350万トン、5,580万トンとなる見込みである。小麦

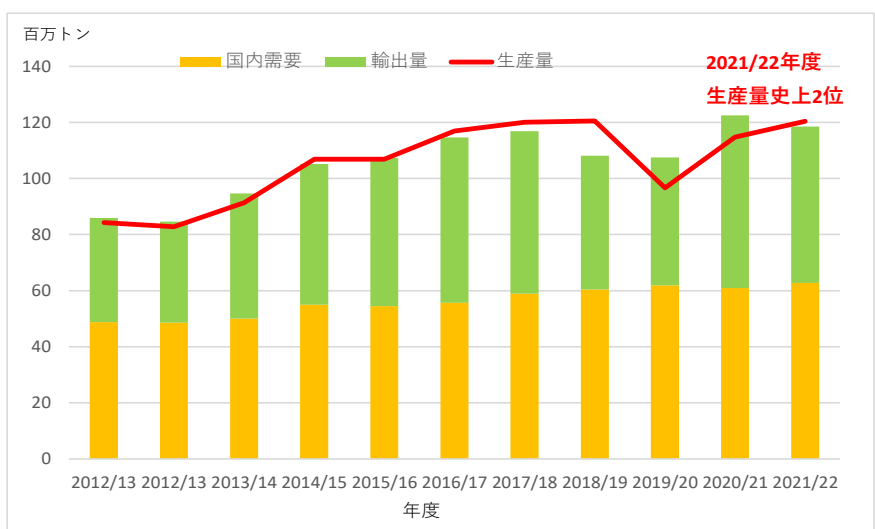
や大豆については、輸出ペースの鈍化から11月見通しで下方修正された。

図2 とうもろこしの生産・需要と輸出の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.11)を農林水産省で加工

図3 大豆の生産、需要と輸出の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.11)を農林水産省で加工

3 依然低水準の在庫と物流コスト増加

米国のとうもろこし、大豆

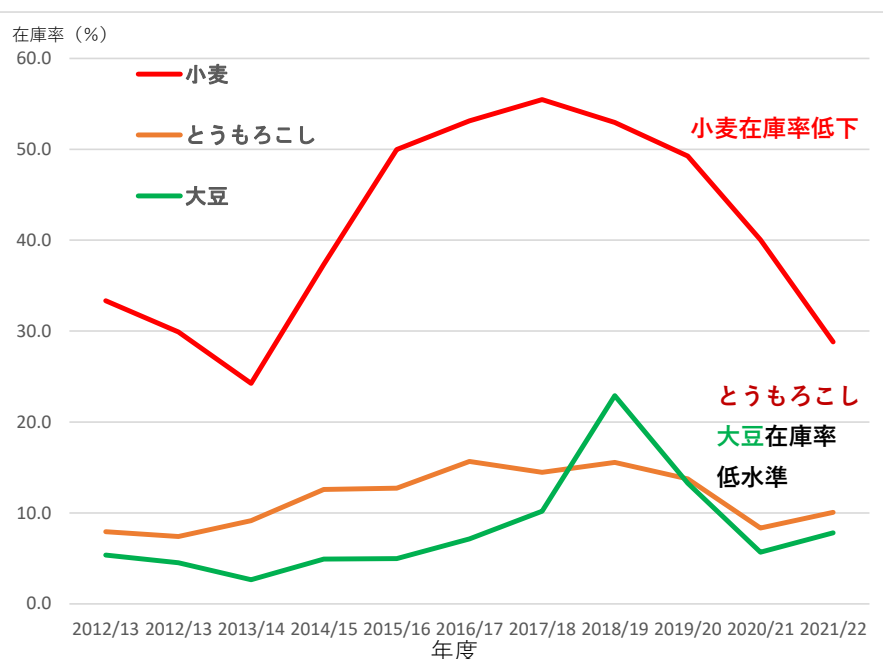
とも史上最高レベルの生産量が見込まれているが、2021/22年度の期末在庫率については、前年度よりは回復するものの、とうもろこしは10.1%、大豆は7.8%と過去5年と比較しても低水準となっている。小麦の期末在庫率は春小麦の減産が響き、前年度の40.0%から28.8%まで低下する見通しである。

物流に関しては、8月末のハリケーンの襲来による米国ガルフの穀物輸出施設への影響については、一部を除き、輸出施設の損傷箇所が修復されたこともあり、影響は最小限にとどまるとみられる。一方、コロナの影響からの世界の経済回復から高騰していたフレートに関しては、北米西海岸を中心にコンテナ物流が混乱している中、今後を見通すことは難しいが、原油価格が上昇した場合、さらに上昇する可能性がある。

こうした中、米国産穀物の輸入に関しては、減産となった小麦だけでなく、豊作となったとうもろこしや大豆に関しても、コストが上昇する可能性をはらんでいる。

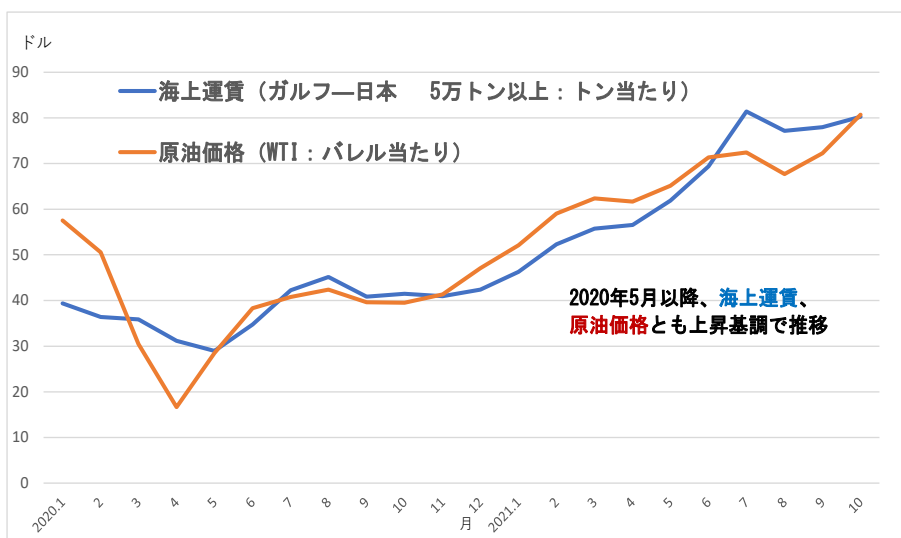
加えて、大手不動産企業等の経営問題などで先行きが不透明な中国経済の動向など不確定要素がある中、南米の作物の生育に影響を与える傾向があるといわれているラニーニャ現象が発生したとみられている。これらのことから、米国の穀物の期末在庫率が比較的低水準であることを踏まえると、南米の生産状況によっては穀物相場が再び上昇する可能性をはらんでおり、引き続き注視が必要である。

図4 米国の小麦、とうもろこし、大豆の在庫率の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.11)を農林水産省で加工

図5 最近の海上運賃と原油価格の推移



資料：海上運賃：国際穀物理事会資料、原油価格：内閣府「海外経済データ」

カナダ西部の11月中旬の洪水による穀物輸出への影響について

カナダでは、平原州（マニトバ・サスカチュワン・アルバータ）で生産された、小麦や菜種、大麦等が、鉄道で太平洋岸のブリティッシュ・コロンビア州のカナダ最大の港のバンクーバー港へ運ばれ、我が国を始めとするアジア諸国など向けへ輸出されている。

報道等によると、11月13日から14日にかけてブリティッシュ・コロンビア州で豪雨に見舞われ、洪水や土砂崩れが発生。

これにより、バンクーバー港に通じる幹線道路が閉鎖、鉄道大手2社カナディアン・パシフィック・レールウェイ（CP）、カナディアン・ナショナル・レールウェイ（CN）も被害を受け運行が停止された。

その後、CP、CNとも23日以降に復旧し、順次運行を再開したが、小麦や菜種、大麦等の輸出が一時的に遅延する等影響がある模様。

図1 北米の11月前半の降水量（JASMAI データより）

カナダ西部太平洋岸から米国太平洋北西岸にかけ300ミリ以上の降雨

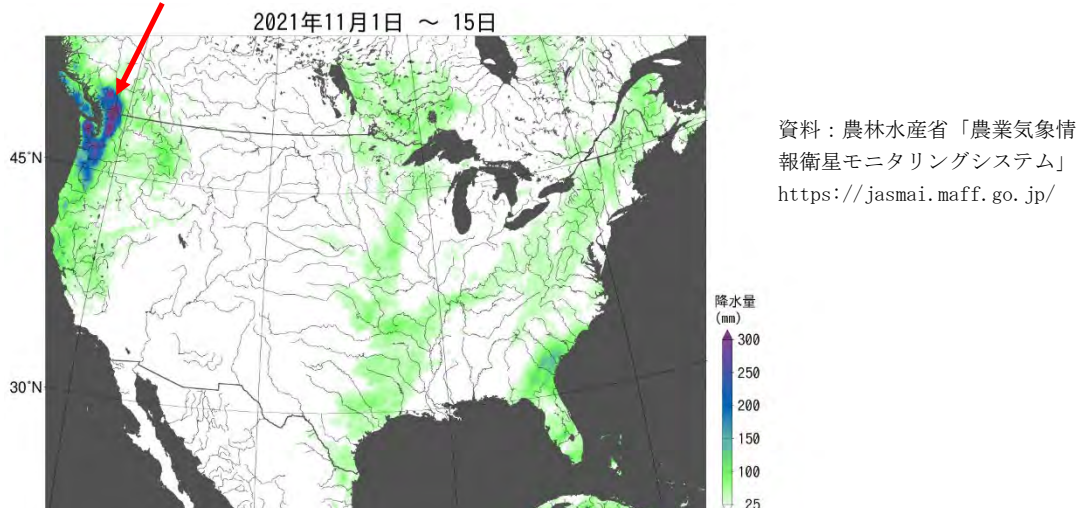
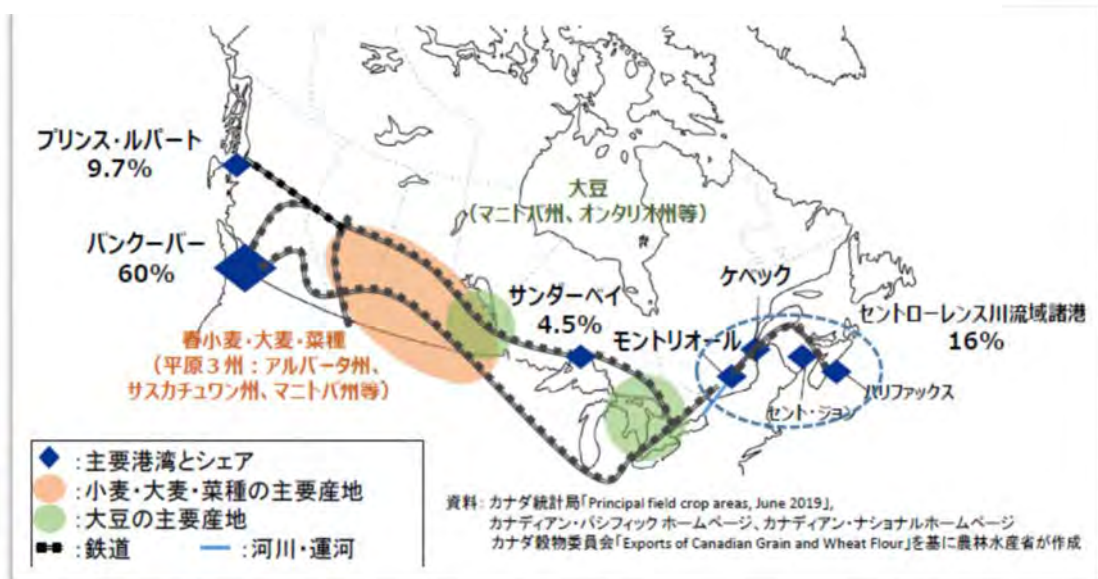


図2 カナダの穀物輸出時の輸送経路

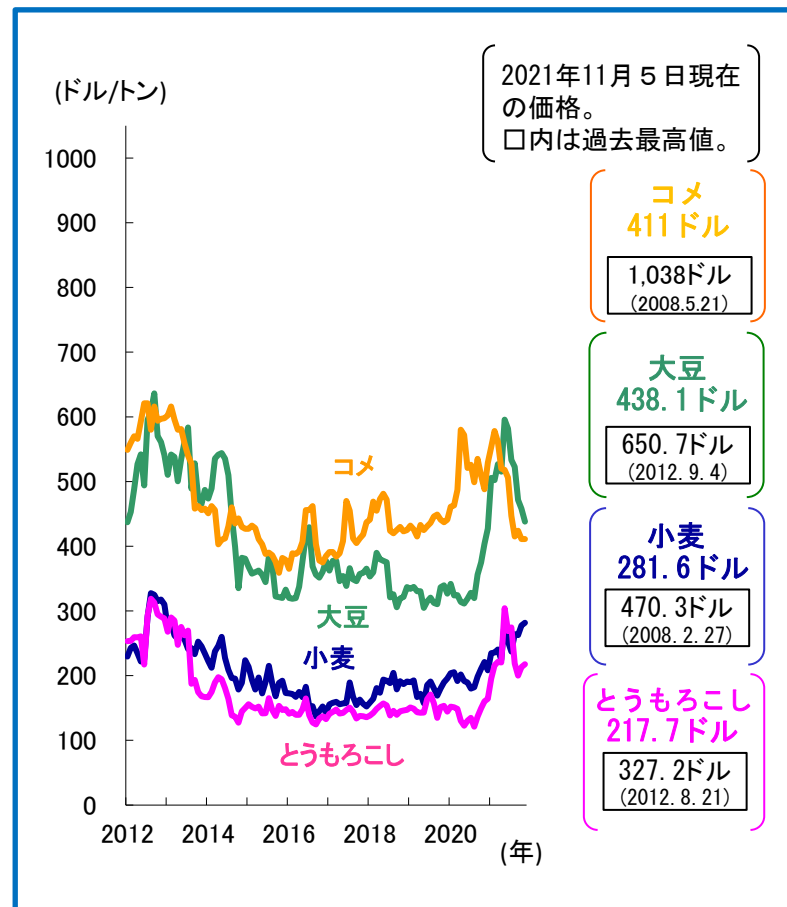
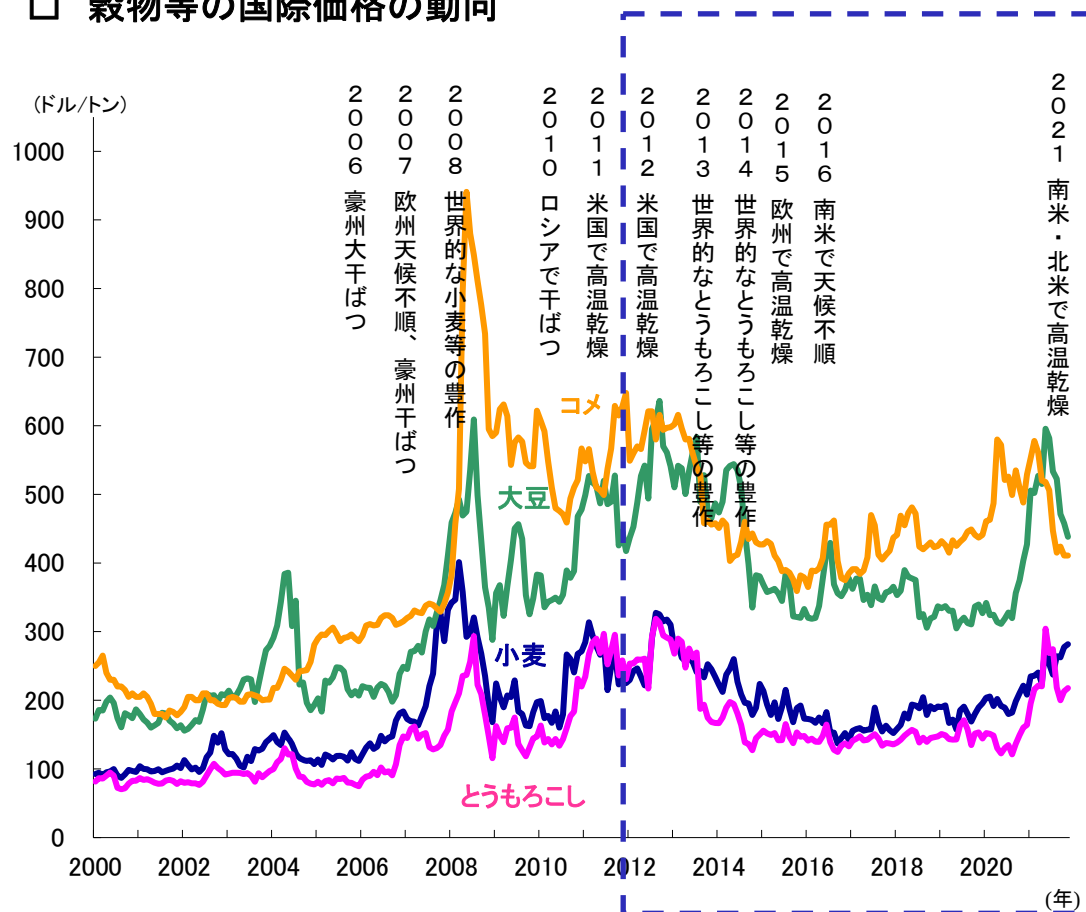


資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。コメは、2013年以降低下も2020年ベトナムの輸出枠設定や2021年初頭のコンテナ不足等で一時的に上昇。2021年2月半ばから海外需要低迷で低下。

○なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



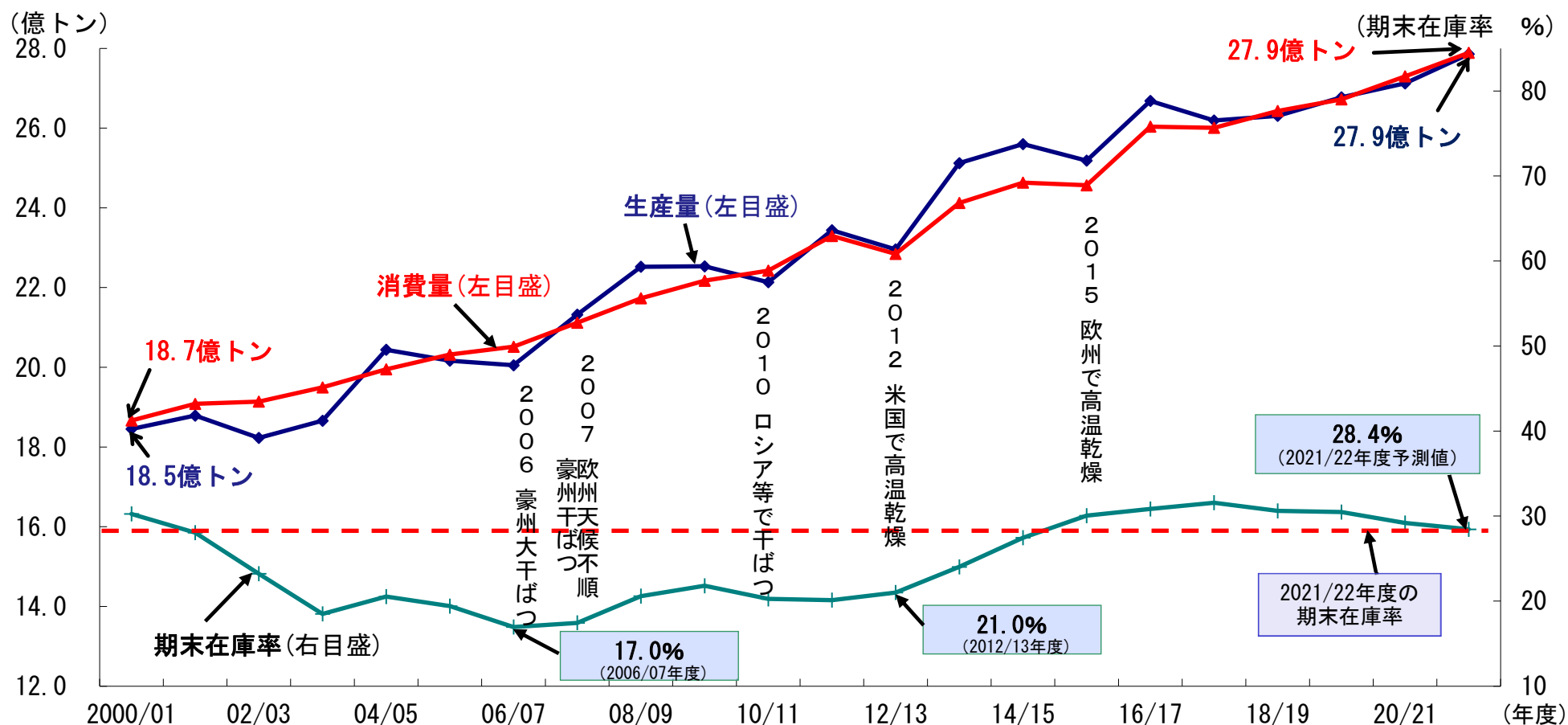
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.4%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

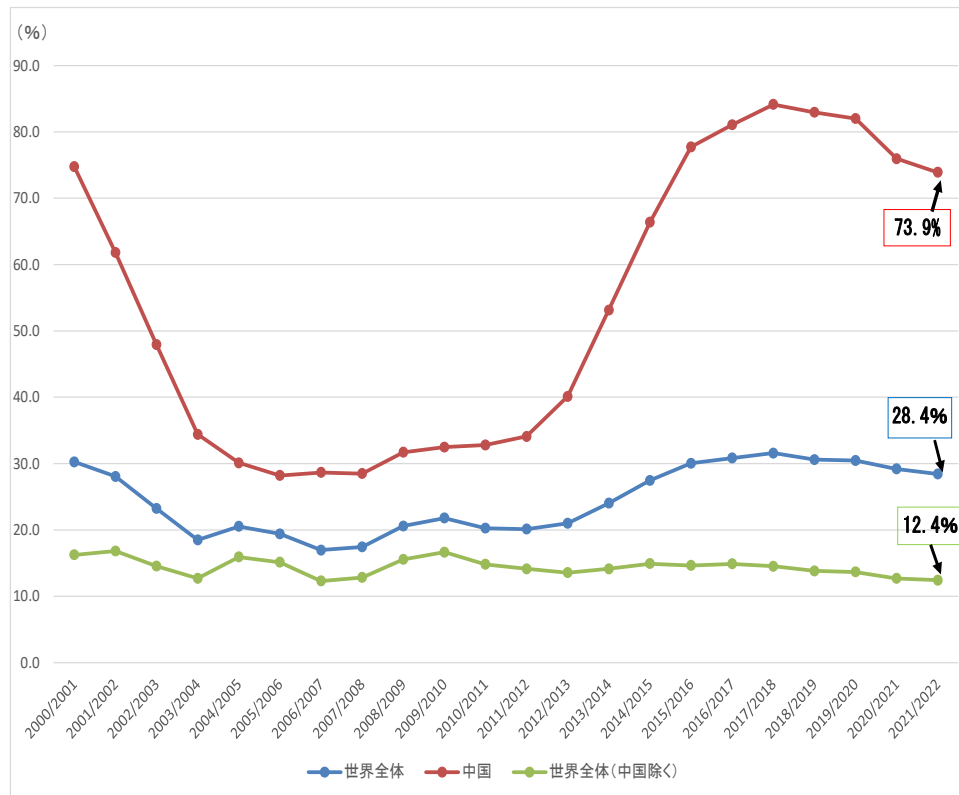


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(November 2021)、「PS&D」

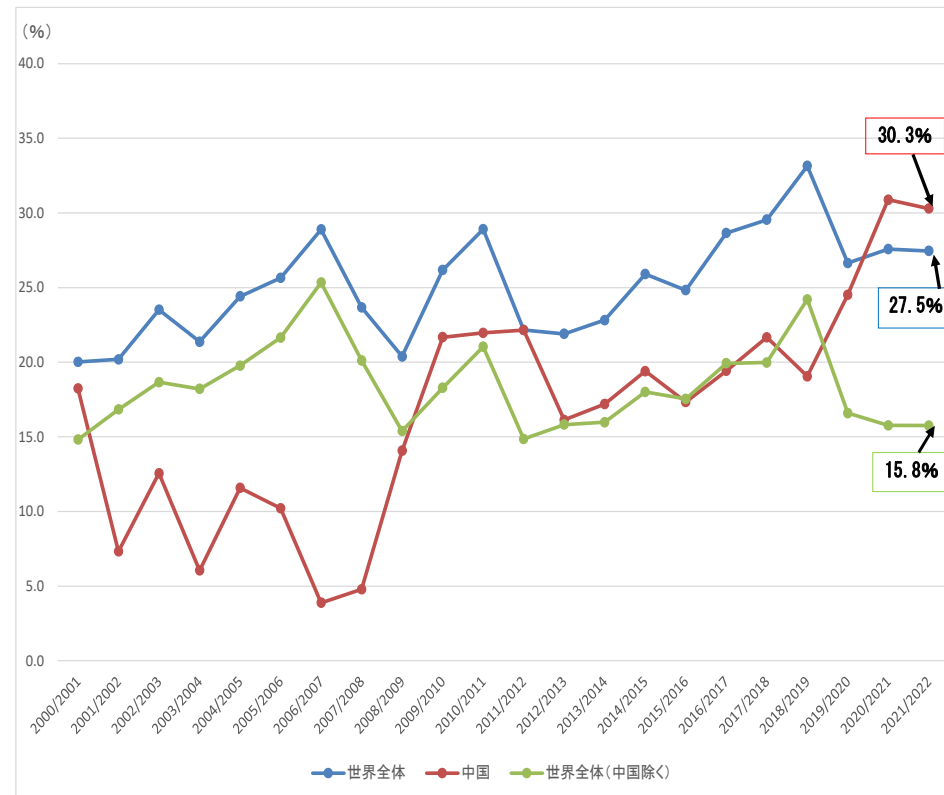
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(November 9, 2021)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

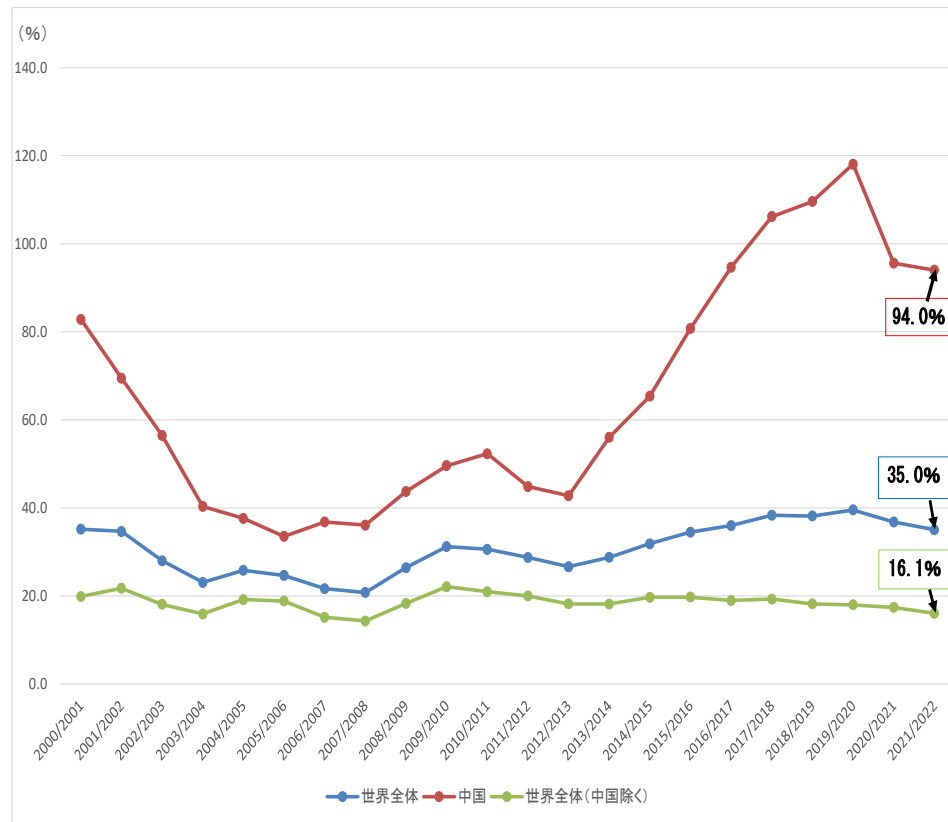
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

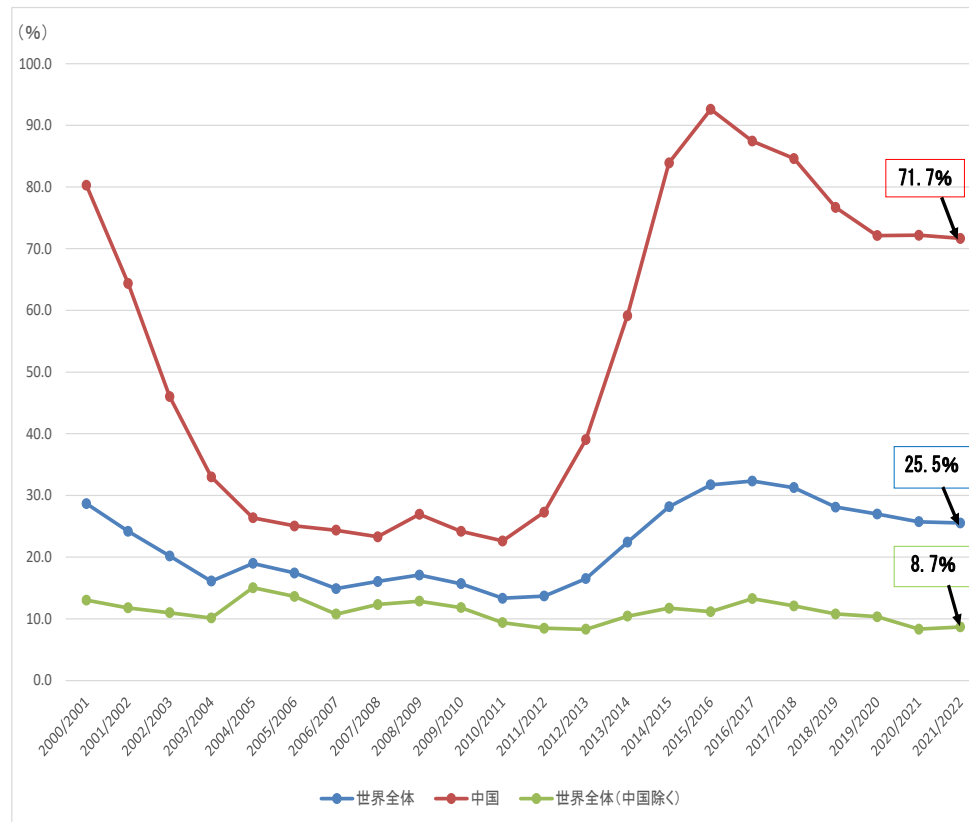
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(November 9, 2021)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

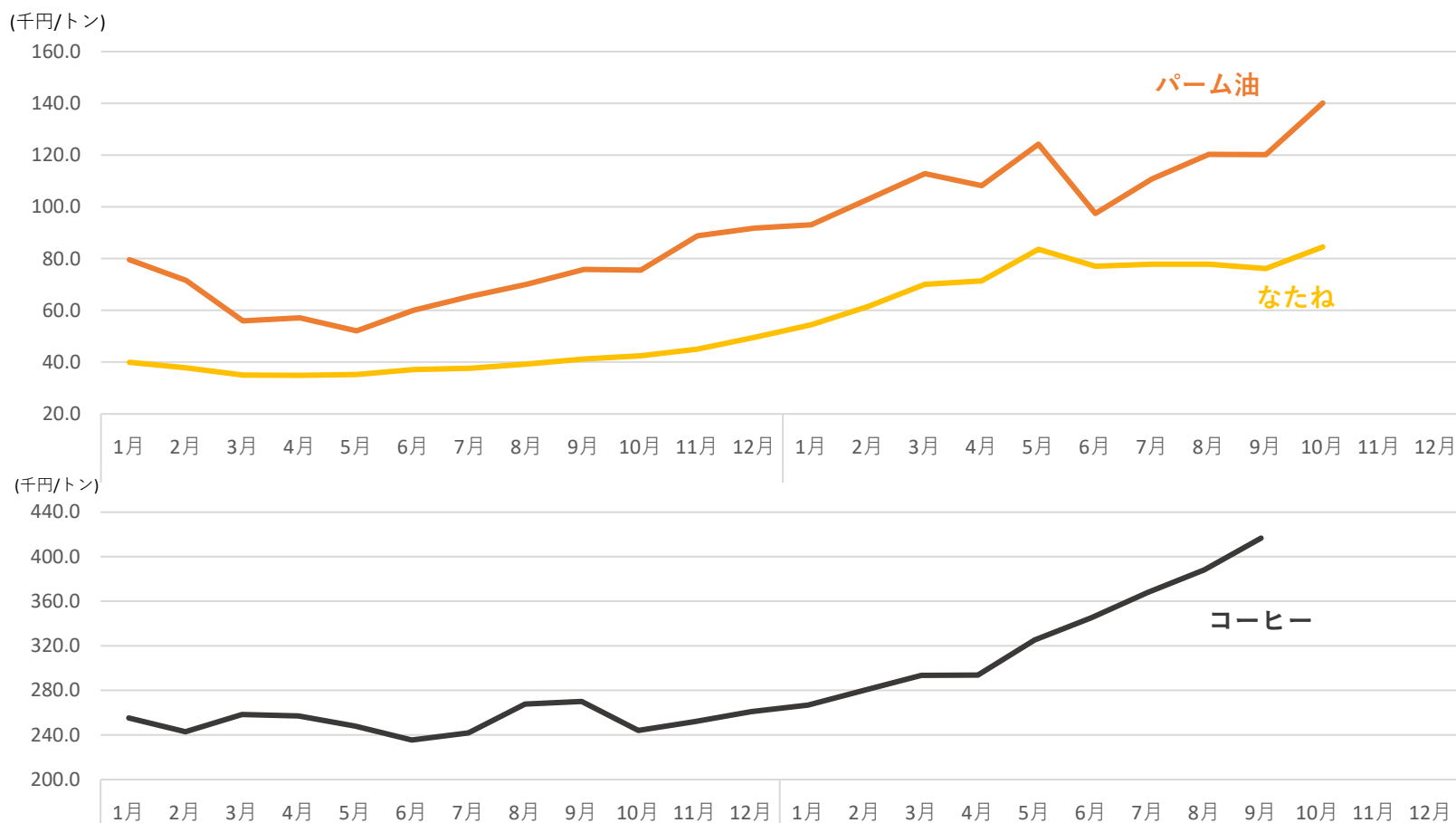
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料４－１ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- なたね、パーム油について、需要の面では世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加などが価格に影響を及ぼしている。
- 供給面では、なたねについて、主産地であるカナダでの高温、乾燥の影響により、減産と品質の低下が見られる。パーム油については、新型コロナウイルスの感染拡大による労働力不足により、主産地であるマレーシアにおいて、収穫作業が進まず、減産傾向となっている。
- コーヒーについて、世界最大の生産国であるブラジルの天候不順や世界的な物流の混乱等供給不足への懸念が強まったこと、需要面ではワクチン接種による経済活動の回復からコーヒー消費量が増加したことが価格に影響を及ぼしている。



2021年11月18日現在
□内は2020年1月以降の最高値。

パーム油
140.1千円/トン
140.1千円/トン
(2021.10)

なたね
84.5千円/トン
84.5千円/トン
(2021.10)

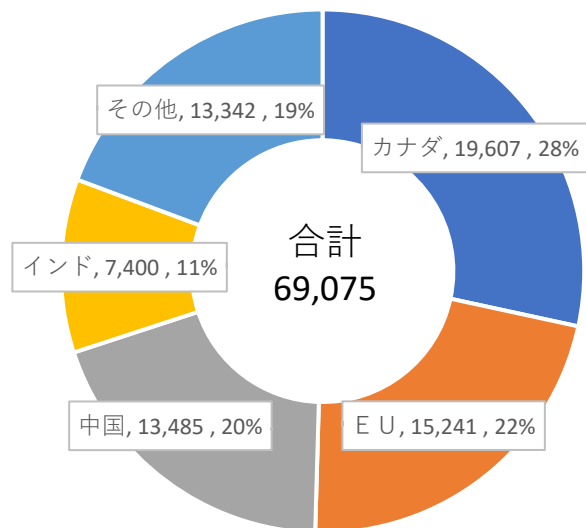
コーヒー
416.7千円/トン
416.7千円/トン
(2021.9)

※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料４－２ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

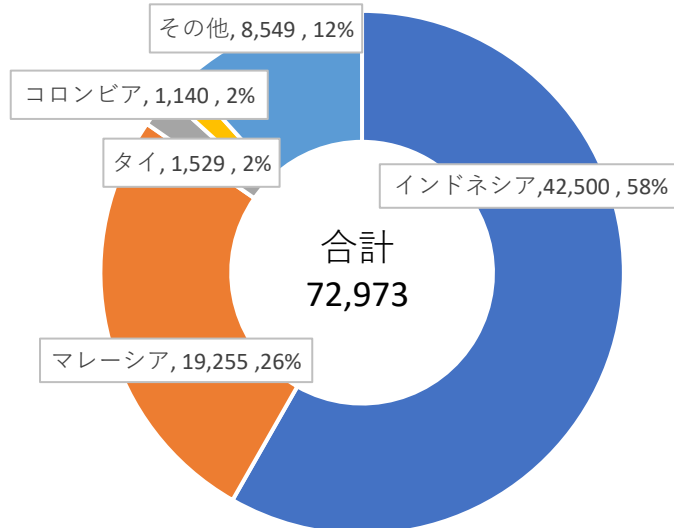
○主要生産国の生産状況

なたね生産量（2019/20）
（単位：千トン）



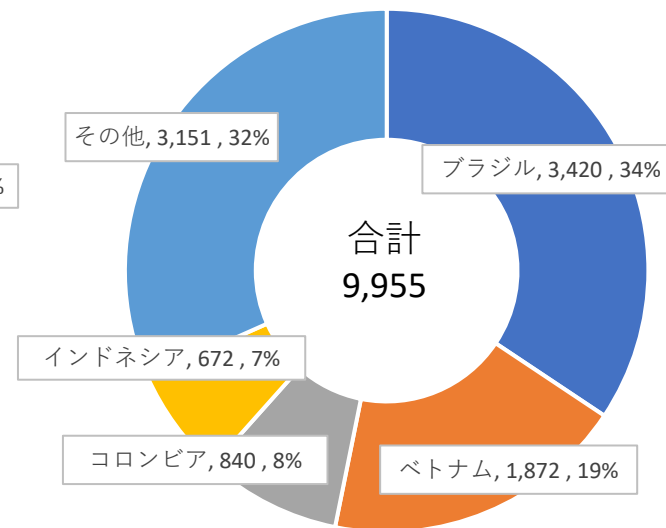
※米国農務省穀物等需給報告

パーム油生産量（2019/20）
（単位：千トン）



※米国農務省穀物等需給報告

コーヒー生産量（2019）
（単位：千トン）



※国際コーヒー機関（ICO）統計資料

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2020年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	2,194	97.4%
オーストラリア	59	2.6%
その他	0	0.0%
合計	2,252	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	447	58.8%
インドネシア	313	41.2%
その他	0	0.0%
合計	761	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	117	29.4%
ベトナム	101	25.2%
コロンビア	61	15.2%
その他	120	30.2%
合計	399	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11-22）

資料４－３ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	39.9	37.8	35.0	34.9	35.2	37.1	37.6	39.2	41.2	42.5	45.0	49.5	54.4	61.5	70.0	71.4	83.6	77.0	77.8	77.9	76.2	84.5		
前月比	103.9	94.7	92.6	99.7	100.9	105.4	101.4	104.2	105.1	103.0	106.1	110.0	109.9	113.0	113.9	101.9	117.1	92.2	101.1	100.0	97.8	111.0		
前年同月比	101.0	94.9	91.6	92.1	98.4	101.8	102.0	109.7	112.6	112.3	119.6	128.9	136.4	162.7	200.1	204.6	237.4	207.6	206.9	198.5	184.9	199.2		

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	79.5	71.6	55.9	57.1	52.1	60.0	65.4	70.1	75.8	75.5	88.8	91.8	93.1	102.9	112.9	108.2	124.2	97.4	110.8	120.3	120.1	140.1		
前月比	105.5	90.0	78.2	102.1	91.1	115.3	109.0	107.2	108.1	99.6	117.6	103.4	101.4	110.6	109.7	95.9	114.8	78.4	113.8	108.5	99.9	116.6		
前年同月比	134.5	115.7	96.0	100.0	98.9	115.0	129.8	129.3	131.9	135.9	134.6	121.7	117.0	143.8	201.8	189.4	238.6	162.3	169.4	171.5	158.4	185.5		

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料４－４ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③ コーヒー

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コーヒー	255.2	242.8	258.3	257.1	247.9	235.5	241.8	267.7	270.0	244.0	251.9	260.9	266.8	280.2	293.5	293.7	325.2	345.1	367.9	388.1	416.7			
前月比	90.9	95.2	106.4	99.5	96.4	95.0	102.7	110.7	100.9	90.4	103.3	103.6	102.3	105.0	104.7	100.1	110.7	106.1	106.6	105.5	107.4			
前年同月比	104.8	98.3	108.5	111.0	111.4	99.1	98.0	119.0	116.0	105.3	97.4	92.9	104.6	115.4	113.6	114.2	131.2	146.6	152.2	145.0	154.3			

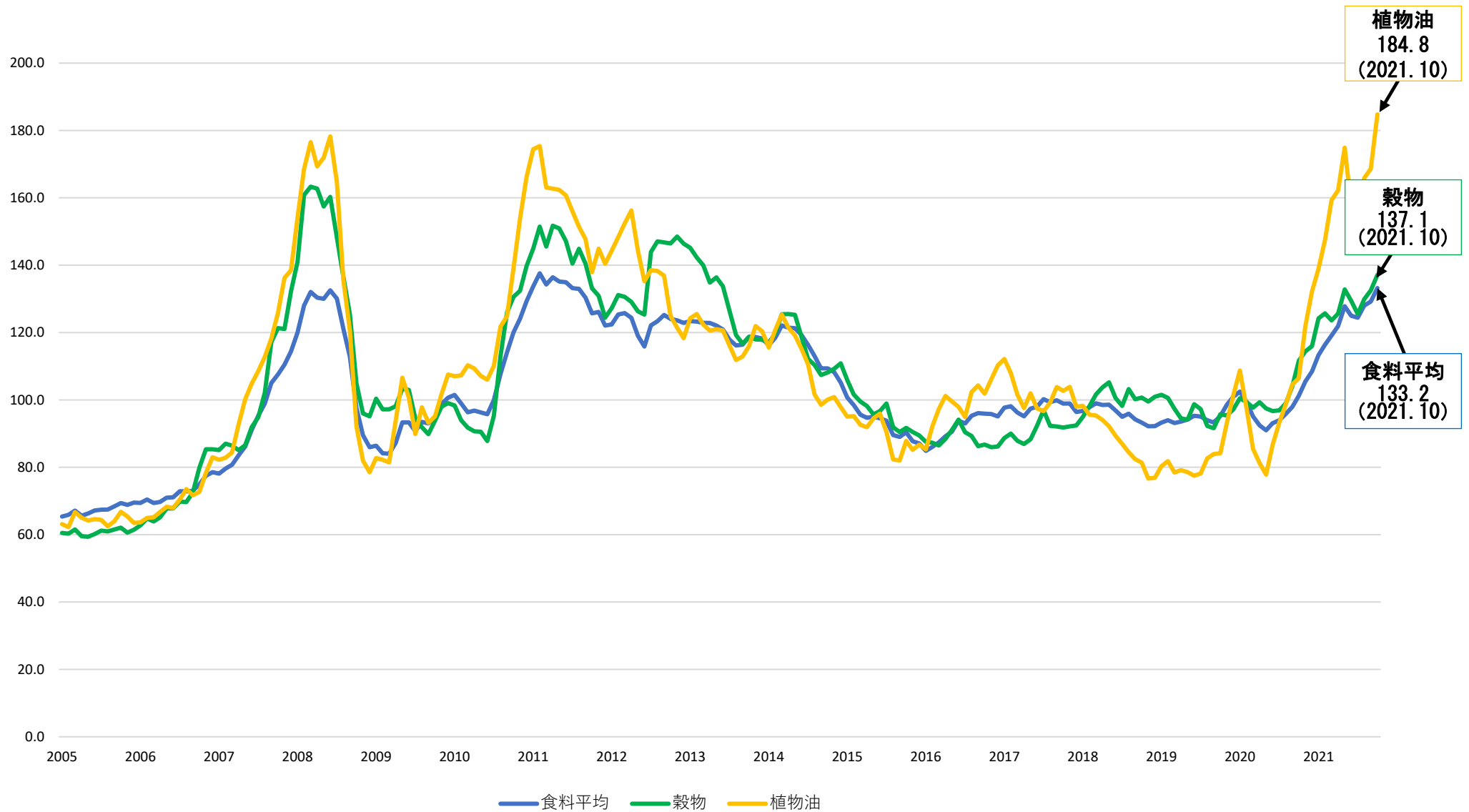
大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出

2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料:FAO「Food Price Index」(2021.11)より作成

注:穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

資料6 食品小売価格の動向

○ 令和3年10月の国内の加工食品の消費者物価指数は99.2～112.4（前年同月比で－2.0%～18.2%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省） （令和3年5月～令和3年10月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3						
品目	平均	平均	平均	平均	平均	5月	6月	7月	8月	9月	10月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.9	99.6	100.2	101.1	100.0	98.3	99.0	99.3	99.4	99.3	99.6	-0.2%
即席めん	96.2	95.7	95.3	98.5	100.0	99.7	99.0	100.4	100.2	99.6	100.9	1.3%
豆腐	98.1	98.6	98.8	99.1	100.0	101.0	100.8	101.0	100.8	101.6	102.0	1.4%
食用油 (キャノーラ油)	106.3	102.7	101.5	100.9	100.0	99.4	102.3	103.9	107.9	113.9	118.1	18.2%
みそ	97.1	96.9	97.4	99.1	100.0	100.0	98.6	99.5	98.9	100.0	99.2	-1.3%
マヨネーズ	103.8	102.3	100.8	100.7	100.0	100.6	100.0	108.6	110.2	111.2	112.4	12.5%
チーズ	97.7	97.3	100.9	101.3	100.0	97.9	96.5	98.7	100.6	100.6	98.4	-2.0%
バター	99.0	99.3	99.5	99.9	100.0	99.9	99.9	99.9	99.8	99.9	99.9	-0.6%
生鮮食品を 除く食料	96.1	97.0	97.9	99.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1	100.4	100.7	0.7%

注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。

【参考】 食品価格動向調査（農林水産省） （令和3年5月～令和3年11月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3										
品目	平均	平均	平均	平均	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)	
食パン	99.0	97.6	97.9	101.3	100.0	98.6	98.0	98.4	97.8	97.5	98.8	98.6	98.2	-0.4%	-1.5%	
即席めん	92.8	92.6	92.4	97.9	100.0	99.6	99.6	99.6	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	0.0%	-0.6%	
豆腐	102.2	100.8	100.1	100.9	100.0	98.5	99.4	100.3	100.3	101.1	105.0	100.7	101.1	0.4%	1.7%	
食用油 (キャノーラ油)	99.6	97.9	97.9	103.5	100.0	98.8	98.2	100.1	100.7	106.1	109.0	112.8	115.3	2.2%	15.9%	
みそ	90.3	91.9	96.6	100.4	100.0	98.4	99.4	99.8	98.1	99.0	102.7	98.4	98.8	0.4%	-0.6%	
マヨネーズ	99.9	99.1	97.9	103.1	100.0	97.7	97.7	99.0	104.5	105.9	106.6	106.6	106.6	0.0%	8.0%	
チーズ	95.5	95.2	98.6	100.9	100.0	99.1	98.6	93.1	99.5	99.1	103.0	98.6	93.6	-5.1%	-6.9%	
バター	98.2	98.8	99.0	99.5	100.0	99.7	99.5	99.7	99.5	99.5	99.5	99.9	99.7	-0.2%	-0.2%	

注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2：調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3：調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4：令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ロシア等で上方修正も、EU、英国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

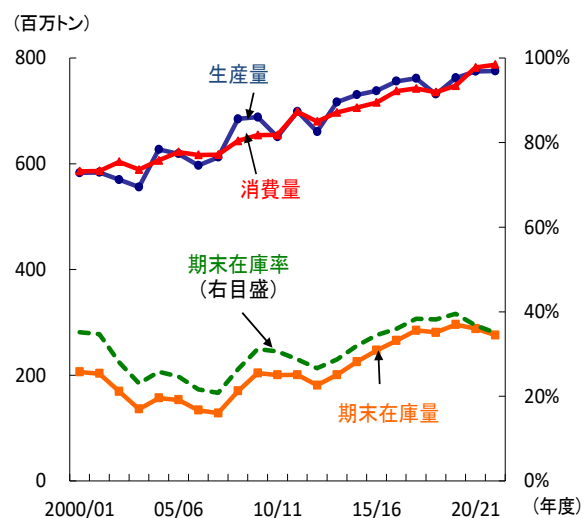
消費量 前年度比 前月比

- ・EU 等で下方修正も、イラン、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・米国等で下方修正も、EU、ロシア、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



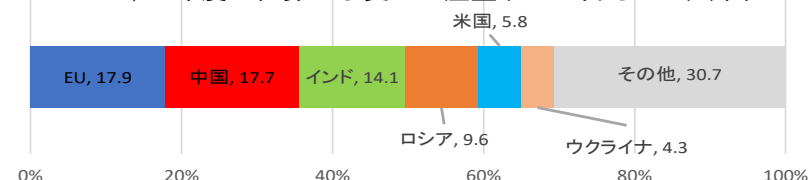
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

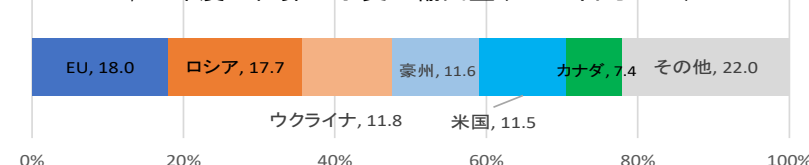
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	762.2	774.7	775.3	▲ 0.6	0.1
消 費 量	747.4	782.2	787.4	0.4	0.7
うち飼料用	139.2	157.1	158.6	▲ 0.1	0.9
輸 出 量	194.3	202.3	203.2	3.5	0.4
輸 入 量	188.2	194.2	201.1	3.0	3.5
期末在庫量	295.5	288.0	275.8	▲ 1.4	▲ 4.2
期末在庫率	39.5%	36.8%	35.0%	▲ 0.2	▲ 1.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 November 2021)

○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量(775.3百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量(203.2百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量(201.1百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2022/23 年度の冬小麦の播種進捗率が 94%

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、44.8 百万トンの見込み。そのうち、冬小麦、春小麦、デュラム小麦の生産量は、それぞれ 34.8 百万トン(対前年度比 9.0%増)、9.0 百万トン(同 43.6%減)、1.0 百万トン(同 46.1%減)である。米国北部の干ばつの影響を受けた春小麦は減産となったが、ハード・レッド・スプリング(HRS)のタンパク質含有量は 5 年平均の 14.4%を上回る 15.4%となる見込み。

同「Crop Progress」(2021.11.15)によれば、主要 18 州の 11 月 14 日時点の 2022/23 年度の冬小麦播種進捗率は、94%と前年度(91%)を上回り、5 年平均(94%)並となった。また、発芽進捗率は、81%と前年度(74%)を上回るものの、5 年平均(83%)を下回った。作柄評価は、良からやや良の割合が 46%と前年度(46%)並となっている。冬小麦の主産地であるカンザス州、ネブラスカ州では、良からやや良の割合が 64%、60%と主要 18 州平均を上回っている。

2031/32 年度までを見通した同「Agricultural Projection」(2021.11.5)によれば、2022/23 年度の小麦全体の作付面積は 19.8 百万ヘクタール、単収(傾向単収)3.3 トン/ヘクタール、生産量は 54.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、2022/23 年度用の種子用消費が増加したため、前月予測より 0.1 百万トン上方修正され 31.7 百万トンの見込み。

11 月 8 日時点の輸出価格(FOB)は、10 月の米国農務省需給報告時に比べ、米国北部の干ばつによる供給の逼迫と国内外の強い需要により、HRS が 24 ドル/トン上昇し 439 ドル/トン、ソフト・ホワイト小麦(SWW)は 6 ドル/トン上昇し 452 ドル/トン。輸出量は、前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 23.4 百万トンの見込み。価格の高騰により、HRS が 2.9 百万トン、SWW が 4.1 百万トンと、それぞれ前月に比べ 0.3 百万トン、0.1 百万トン減少する見込み。10 月の輸出先国は、メキシコ(23.9%)、日本(15.8%)の順で、中国(6.2%)は第 5 位であった。

2021/22 年度の期末在庫量は、前月予測より 0.1 百万トン上方修正され 15.9 百万トンとなるものの、2007/08 年度以降最小の見込み。

小麦－米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.8	44.8	-	▲ 10.0
消費量	30.4	30.5	31.7	0.1	3.9
うち飼料用	2.6	2.6	3.7	-	41.7
輸 出 量	26.4	27.0	23.4	▲ 0.4	▲ 13.3
輸 入 量	2.8	2.7	3.1	▲ 0.3	14.7
期末在庫量	28.0	23.0	15.9	0.1	▲ 31.0
期末在庫率	49.3%	40.0%	28.8%	0.3	▲ 11.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.89	15.04	-	1.0
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.98	-	▲ 10.8

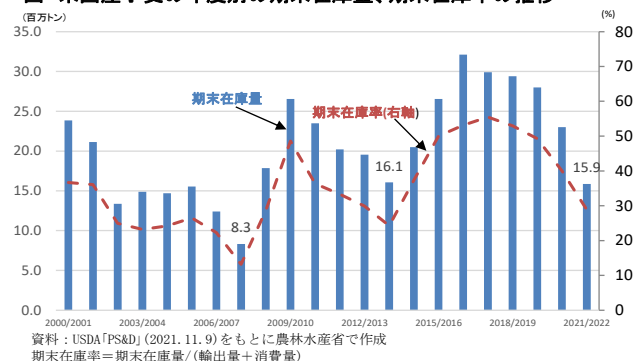
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(9 November 2021)

図 米国産品種別小麦の輸出価格(FOB)の推移



資料: USDA「World Markets and Trade」(2021. 11. 9)

図 米国産小麦の年度別の期末在庫量、期末在庫率の推移



資料: USDA「PS&D」(2021. 11. 9)をもとに農林水産省で作成
期末在庫率=期末在庫量/(輸出量+消費量)

< カナダ > 輸出価格は一時 2014 年以降最高の 432 ドル/トンに上昇

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、21.0 百万トンと、前年度に比べ 40.3%減少し、2007/08 年度以降最低となる見込み。

カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.11.17)によれば、生産量は前月予測からの変更はなく、21.7 百万トンの見込み。カナダ穀物委員会(CGC:Canadian Grain Commission)のサンプル調査の結果、デュラム小麦の品質は平均タンパク質含有量が 15.7%で、調査対象の 70%が 1 から 2 等に格付けされた。また、普通小麦も平均タンパク質含有量が 14.7%で、多くが 1 から 2 等に格付けされた。

AMIS「Market Monitor」(2021.11.4)によれば、2022/23 年度の冬小麦は、主要生産州であるオンタリオ州では良好な生育条件に恵まれているものの、平原三州では干ばつに見舞われている。

【貿易情報・その他】IGC によれば、輸出価格(カナダ・ウエスタン・レッド・スプリング:CWRS)は、生産減による供給量の減少から、11 月 1 日には、2014 年 6 月 2 日以降最高の 432 ドル/トンに上昇し、主要輸出国の中で最も高水準となった。

USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 15 .0 百万トンの見込み。干ばつによる生産減から、2005/06 年度以降最低となる見込み。

CGC によれば、9 月の輸出量は普通小麦が 1.0 百万トン、デュラム小麦は 0.2 百万トンの 1.2 百万トン。輸出先国は、普通小麦がインドネシア(15.5%)、中国(11.0%)、バングラデシュ(10.8%)、デュラム小麦はイタリア(46.7%)、米国(20.9%)、モロッコ(17.0%)の順。

期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、4.5 百万トンと前年度を 21.1%下回り、史上 2 番目の低水準となる見込み(史上最低は穀物価格が高騰した 2007/08 年度の 4.4 百万トン)。

現地情報によると、カナダ西部ブリティッシュコロンビア州で 11 月 13 日から 2 日間の集中豪雨により洪水や土砂崩れが発生。これにより、カナダ最大の港であるバンクーバー港に通じる幹線道路が閉鎖、鉄道大手 2 社カナディアン・パシフィック・レールウェイ (CP)、カナディアン・ナショナル・レールウェイ (CN) も止まった。CP、CN とも 23 日以降に順次再開したが、カナダの小麦等の輸出が一時的に遅延する等、穀物の物流が混乱する可能性があると考えられている。

小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	21.0 (21.7)	-	▲ 40.3
消費量	9.3	9.1	7.9 (8.1)	-	▲ 13.5
うち飼料用	4.1	4.2	2.8 (4.0)	-	▲ 33.0
輸出量	24.6	26.4	15.0 (16.1)	-	▲ 43.2
輸入量	0.7	0.6	0.7 (0.2)	-	27.3
期末在庫量	5.5	5.7	4.5 (3.5)	-	▲ 21.1
期末在庫率	16.2%	16.0%	19.6% (14.3%)	-	3.6

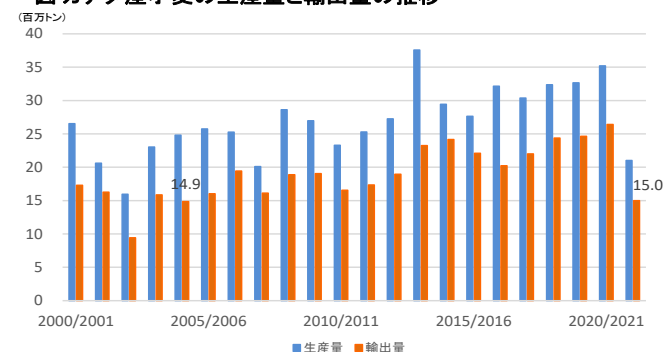
(参考)

収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	8.50 (9.17)	-	▲ 15.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.47 (2.37)	-	▲ 29.6

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)

AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(17 November 2021)

図カナダ産小麦の生産量と輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2021.11.9)をもとに農林水産省で作成

図小麦主要輸出国の輸出価格(FOB)の推移



資料:USDA「grain:World Markets and Trade」(2021.11.9)

< 豪州 > 2021/22 年度の収穫が開始、史上第3位の豊作見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、31.5百万トン。前年度に比べ4.5%減少するものの、史上第3位の豊作の見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report(2021.9.7)」によれば、2021/22年度の生産量は、5年平均(23.6百万トン)を上回る32.6百万トンの見込み。

AMIS「Market Monitor」(2021.11.4)によれば、殆どの作付地域で降雨に恵まれ生育環境は良好。北部の生産地から収穫が開始されている。

GIWA(西豪州穀物産業団体)によれば、2021/22年度の西オーストラリア州の小麦の収穫は、継続する降雨と低温により収穫は遅れた。霜害のあった北東部と東部を除き、単収は予想より良好で、小麦の生産量は、10月予測から0.7百万トン上方修正され、11.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、11月8日時点の豪州の輸出価格(FOB)は、収穫を前にして、前月から12ドル/トン上昇して333ドル/トンとなった。他の主要輸出国の同日時点の輸出価格は、カナダ406ドル/トン、米国362ドル/トン、ロシア、EU333ドル/トン。

2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、23.5百万トンと豊作であった前年度を4.1%下回るものの、干ばつの2019/20年度(9.1百万トン)の2.6倍の見込み。

豪州統計局によれば、9月の輸出先国は、韓国(16.4%)、中国(13.6%)、インドネシア(9.2%)の順である。

USDAによれば、豪州の輸出先は、主として地理的に近く、ホワイト小麦の需要が多いインドネシア、フィリピン等のアジアに集中すると見られる。小麦の主要輸入国のインドネシアでは、2021年1月から同年9月の輸入量は、前年同時期に比べ1.2倍となったが、輸入先国はアルゼンチン、米国は減少、一方で豪州は0.5百万トンから4.4百万トンと8.8倍に増加した。アジア市場では輸送コストや輸送日数の点で他の輸出国に比べ有利であるため、十分な生産量で輸出余力が確保されれば、豪州の輸出は長期的に堅調に推移すると見られる。

なお、港湾能力に限りがあるため、カナダ、米国の生産量の減少に伴う豪州産穀物への需要集中による輸出コストの上昇に注視が必要。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	14.5	33.0	31.5 (32.0)	-	▲ 4.5
消 費 量	8.0	8.0	8.0 (8.7)	-	-
うち飼料用	4.5	4.5	4.5 (5.0)	-	-
輸 出 量	9.1	24.5	23.5 (23.5)	-	▲ 4.1
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.4)	-	-
期末在庫量	2.7	3.4	3.6 (4.4)	▲ 0.5	5.9
期末在庫率	15.6%	10.4%	11.4% (13.6%)	▲ 1.6	1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	9.86	13.00	13.10 (13.0)	-	0.8
単収(t/ha)	1.47	2.54	2.40 (2.47)	-	▲ 5.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)

IGC 「Grain Market Report」(21 October 2021)

写真 ビクトリア州の収穫を待つ小麦(2021年11月1日撮影)



7月下旬に播種が行われた小麦の圃場。
この地域では、冬季の降雨量が多く、圃場は水分量過多の状態であった。
その後、天候が回復し土壌水分量が適切となり生育が進んだため、小麦生産量予測が引き上げられた。
この地域の小麦の生産量は平均を上回ると予測されている。

表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年9月			2021年1月～9月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
韓国	21.4	16.4	インドネシア	429.9	21.0
中国	13.6	10.4	ベトナム	254.6	12.5
インドネシア	12.0	9.2	フィリピン	166.9	8.2
フィリピン	9.8	7.5	中国	136.9	6.7
日本	8.3	6.3	韓国	96.9	4.7
その他	65.7	50.2	その他	958.9	46.9
合計	130.8	100.0	合計	2,044.1	100.0

資料：豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU > 2022/23 年度の冬小麦の播種が進展、発芽も開始

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.10.29)によれば、2021/22 年度の EU27 ヶ国の生産量は、前月予測から 1.3 百万トン下方修正され、138.8 百万トン。

このうち、普通小麦は前月に比べ 0.7 百万トン下方修正され、131.3 百万トンとなるものの、前年度を 10.8%上回る見込み。国別には、イタリア等で上方修正されたものの、フランス等で下方修正された。一方、デュラム小麦は、前月に比べ 0.6 百万トン下方修正され 7.5 百万トンとなるものの、前年度を 0.6%上回る見込み。国別にはギリシャで上方修正されたものの、イタリア等で下方修正された。

また、英国環境・食料・農村地域省(DEFRA)「First estimates of 2021 UK wheat and barley production」(2021. 10.11)によれば、英国の 2021/22 年度の実生産量は、14.0 百万トンの見込み。

この結果、EU27 ヶ国と英国の合計生産量は 152.8 百万トンとなる見込み。

ドイツでは収穫期の降雨で品質は低下した模様。また、フランスではタンパク質含有量は過去 5 年平均を下回る 11.9%で、含有水分量は夏の長雨で 14.0%と高く、容積重も例年より少ない。

2022/23 年度の冬小麦の生育条件については、10 月の前半に熱帯低気圧の影響で降雨量が多くなり、特にバルカン半島では降雨が継続したため、冬作物の播種に必要な土壌水分量となった。

このため、フランス北部及びベネルクス 3 国で若干遅れているものの、フランス、ドイツでは、播種は良好に進んでいる。

「France Agri Mer」(2021.11.12)によれば、11 月 8 日現在、フランスの 2022/23 年度の播種進捗率は、冬小麦が 87%(前週 80%、前年度同時期 86%)、デュラム小麦が 38%(同 26%、50%)となった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、アフリカ諸国や中東への輸出が好調なことから、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、37.2 百万トンの見込み。

EU 委員会によれば、8 月の輸出量は、普通小麦が 3.5 百万トン、デュラム小麦が 0.2 百万トン。輸出先国は、普通小麦がアルジェリア(21.0%)、韓国(7.9%)、デュラム小麦がトルコ(66.3%)、コートジボワール(11.3%)。

USDA によれば、期末在庫量は前月予測に比べ 1.3 百万トン下方修正され 11.5 百万トン。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	154.3	135.7	152.7 (152.5)	▲ 1.7	12.6
消 費 量	122.9	117.7	122.8 (121.8)	▲ 1.4	4.3
うち飼料用	53.2	48.0	52.5 (49.6)	▲ 1.2	9.5
輸 出 量	41.4	30.2	37.2 (35.3)	1.0	23.3
輸 入 量	7.3	8.6	7.3 (7.5)	-	▲ 15.1
期末在庫量	15.1	11.5	11.5 (14.2)	▲ 1.3	0.0
期末在庫率	9.2%	7.7%	7.2% (9.0%)	▲ 0.1	▲ 0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	26.16	24.47	25.80 (25.51)	0.07	5.4
単収(t/ha)	5.90	5.54	5.92 (5.98)	▲ 0.06	6.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)

IGC 「Grain Market Report」(21 October 2021)

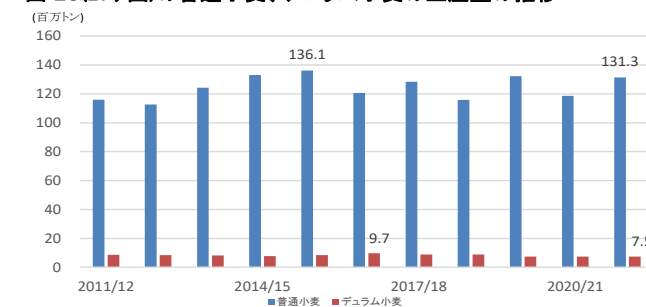
表内及び () 内のデータはEU27ヶ国+英国のデータ

写真 発芽した 2022/23 年度の冬小麦 ドイツバイエルン州(2021.10.28)



10 月 17 日に播種を実施し、2 日後に発芽を観測。天候は例年並みで、順調な成長が期待される。この圃場では毎年、小麦・ライ麦・とうもろこし等の輪作を実施している。

図 EU(27ヶ国)の普通小麦、デュラム小麦の生産量の推移



資料：欧州委員会「EU Cereals Production, Area, and Yield(2021.10.29)をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.11.5)によれば、2021/22 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.1%増の 137.1 百万トンと史上最高の見込み。内訳は、冬小麦が前年度比 1.9%増の 129.3 百万トン、春小麦は同 4.9%増の 7.8 百万トン。

中国農業農村部(2021.10.20)によれば、2022/23 年度の中国全土の冬小麦の作付進捗は、9 月以降の降雨過多で、10 月 19 日時点で平年より遅れており、特に、山東、河北、山西、河南、陝西で 15 日以上遅れている。このため、作付時期の遅い麦の比率が高くなることで積算温度の不足による冬前の分けつ減少が生じ、個体が弱く小さくなる可能性がある。しかしながら、生育期間が 230 日あるため、今後の天候により回復の余地は大きいと見られる。

中国農業農村部(2021.11.5)によれば、2022/23 年度の中国全土の冬小麦の播種進捗率は 78.3%で、そのうち、山東、河北等は 90%以上、陝西は 80%以上となっている。

中国中央气象台(2021.11.5)によれば、生育段階は山東、河北、陝西等で播種から三葉期、一部は分けつ期に入っている。また、生育状況は、中国全土の冬小麦の 27%が一類苗(※)、73%が二類苗に格付けされている。前月同期に比べると、一類苗は 3 ポイント上昇し、二類苗は 3 ポイント低下した。※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さく弱っている苗

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測から飼料用が 0.4 百万トン下方修正され、35.6 百万トンの見込み。中国国内のとうもろこし価格の下落で小麦ととうもろこしの価格差が縮小し、小麦の飼料用需要が下方修正された。

中国農産品供需形勢分析月報(9 月)によれば、新穀小麦の集中的な需要は落ち着いたものの、小麦の流通量が減少したため、9 月の小麦国内価格は上昇。また、連続した降雨による 2022/23 年度の冬小麦の播種の遅延のため、一部の農家等が価格の上昇期待から小麦を売り惜しんでいる一方、小麦粉の需要期に入り加工業者の需要が増加するため、今後の小麦価格は上昇する見通し。

中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 9 月の小麦輸入量は前年同時期(5.9 百万トン)から 28.8%増の 7.6 百万トンとなった。同期間の輸入先国は、カナダ(32.3%)、米国(30.5%)、豪州(24.8%)の順で、この 3 カ国で全体の 87.6%を占めている。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

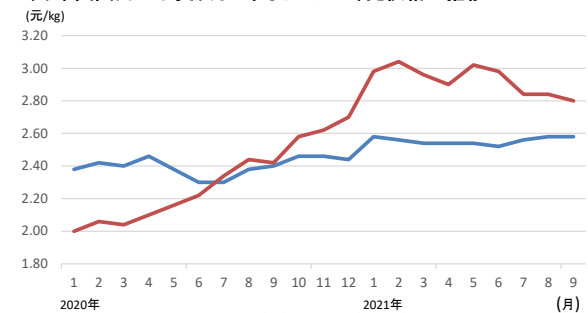
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	133.6	134.3	136.9 (137.1)	-	2.0
消 費 量	126.0	150.0	149.0 (146.5)	-	▲ 0.7
うち飼料用	19.0	40.0	36.0 (33.4)	-	▲ 10.0
輸 出 量	1.1	0.8	1.0 (1.3)	-	31.6
輸 入 量	5.4	10.6	10.0 (10.6)	-	▲ 5.8
期末在庫量	150.0	144.1	141.0 (128.3)	-	▲ 2.2
期末在庫率	118.1%	95.6%	94.0% (86.8%)	-	▲ 1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.80 (23.8)	-	1.8
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.75 (5.76)	-	0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)
IGC 「Grain Market Report」(21 October 2021)

図 中国国内の小麦及びとうもろこしの卸売価格の推移



注：小麦価格：河南省鄭州市食料卸売市場の卸売価格、とうもろこし価格：全国平均卸
資料：中国国産糧油情報センター

表 中国の小麦輸入先国(2021年9月、2021年1月～2021年9月、2020年1月～2020年9月)

2021年9月			2021年1月～2021年9月			2020年1月～2020年9月		
国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
米国	25.7	40.4	カナダ	244.7	32.3	カナダ	172.0	29.4
カナダ	20.3	31.9	米国	231.0	30.5	フランス	153.5	26.2
豪州	16.5	25.9	豪州	187.5	24.8	豪州	107.9	18.4
カザフスタン	0.6	0.9	フランス	65.4	8.6	米国	100.8	17.2
ロシア	0.5	0.8	カザフスタン	16.8	2.2	ロシア	33.3	5.7
その他	0.0	0.0	その他	6.6	0.9	その他	18.2	3.1
計	63.7	100	計	756.7	100.0	計	585.8	100.0

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 生産量は単収の上昇により前月に比べ2.0百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量(クリミア分は含まない)は、前月予測から2.0百万トン上方修正され74.5百万トンとなるものの、前年度に比べ12.7%減の見込み(冬小麦は51.5百万トン、春小麦は23.0百万トン。それぞれ前月から1.0百万トン上方修正)。

ロシア農業省の速報値によれば、11月15日現在、小麦の収穫面積は27.8百万ヘクタール(収穫進捗率は96.8%)、収穫量(重量調整前)は78.0百万トンである。

ロシア穀物品質評価センターによれば、11月8日までに収穫された75.3百万トンの57.6%にあたる43.3百万トンの小麦を検査したところ、1等、2等の計は0.06%(前年同日0.04%)、3等は46.7%(同33.4%)、4等は40.7%(同39.3%)、主に飼料用の5等は12.5%(同26.9%)で、1～4等の計は87.4%と前年同日時点の71.7%を大きく上回り、品質は高水準となる見通し。

一方、ロシア農業省の速報値によれば、2022/23年度の冬小麦の播種が進んでおり、11月9日時点の播種面積は18.1百万ヘクタールに達したが、播種進捗は前年度同時期に比べ4.9%遅れている。ロシア・ヨーロッパ部では、土壌水分は沿ボルガ管区の一部で不足したものの、概ね適切であったため、生育は順調。生育段階は、播種時期に応じて、発芽から分げつ期を迎えている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、中東からの需要増加のため前月予測から1.0百万トン上方修正されたものの、前年度を6.5%下回る36.0百万トンの見込み。9月の輸出先国は、非公表(33.5%)、トルコ(18.4%)、エジプト(11.3%)であった。減産となったイラン、トルコでは、ロシアからの輸入が増加。一方、世界最大の小麦輸入国のエジプトでは、ロシアの輸出税の影響で、ルーマニア、ウクライナからの安価な小麦が流入し、ロシア産のシェアは低下している。ロシア税関統計によれば、9月の輸出量は5.1百万トン。ロシア農業省の速報値によれば、10月は2.7百万トンで大幅に減少した。高水準な輸出関税で輸出は低調となる予想も、11月の世界的な小麦相場上昇から取引が活発化している。

なお、11月10日パトルシェフ農相は、国内小麦価格抑制のため、小麦国際相場が400ドル/トンまで上昇すれば、可変輸出税の算定方式を見直すと述べた。また、来年上半期に導入予定の輸出枠は2021/22年度の収穫量をもって決める方針。

小麦—ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	73.6	85.4	74.5 (75.0)	2.0	▲ 12.7
消費量	40.0	42.5	41.0 (41.7)	0.5	▲ 3.5
うち飼料用	17.0	19.0	18.0 (17.3)	0.5	▲ 5.3
輸 出 量	34.5	38.5	36.0 (34.1)	1.0	▲ 6.5
輸 入 量	0.3	0.4	0.5 (0.3)	-	25.0
期末在庫量	7.2	12.0	10.0 (12.3)	0.6	▲ 16.7
期末在庫率	9.7%	14.8%	13.0% (16.2%)	0.4	▲ 1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	27.60 (28.0)	▲ 0.40	▲ 3.8
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.70 (2.68)	0.11	▲ 9.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)
IGC 「Grain Market Report」(21 October 2021)

図 ロシア産小麦の可変輸出関税額の推移

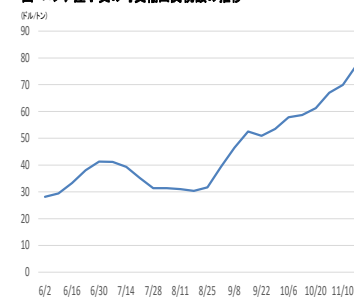
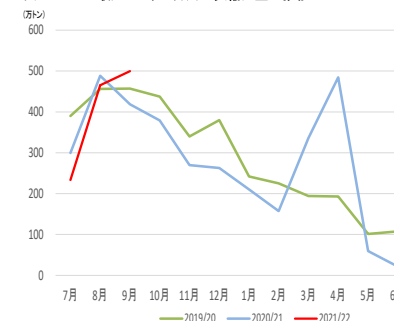


図 ロシアの最近3か年の月別小麦輸出量の推移



資料: ロシア農業省の公表資料をもとに農林水産省で作成 資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

表 ロシアの小麦輸出先国(2021年9月、2021年7月～2021年9月、2020年7月～2020年9月)

2021年7月			2021年7月～2021年9月			2020年7月～2020年9月		
国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
非公表	170.7	33.5	非公表	286.5	23.5	トルコ	228.8	23.6
トルコ	93.9	18.4	トルコ	279.1	22.9	エジプト	190.3	18.5
エジプト	57.5	11.3	エジプト	150.0	12.3	バングラデシュ	102.0	6.8
ナイジェリア	23.9	4.7	ナイジェリア	64.5	5.3	アゼルバイジャン	60.2	3.9
アゼルバイジャン	18.6	3.7	アゼルバイジャン	37.9	3.1	ナイジェリア	53.3	3.4
その他	144.8	28.4	その他	400.6	32.9	その他	1,469.7	43.7
計	509.4	100.0	計	1,218.6	100.0	計	1,198.2	100.0

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU、アルゼンチン、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

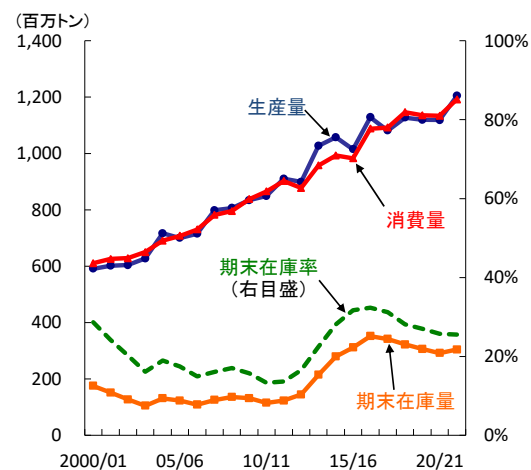
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、EU等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2021.11.9)をもとに農林水産省にて作成

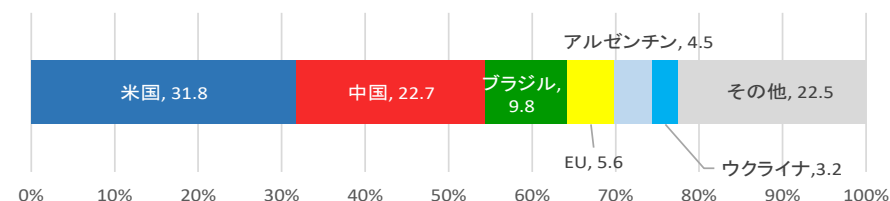
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

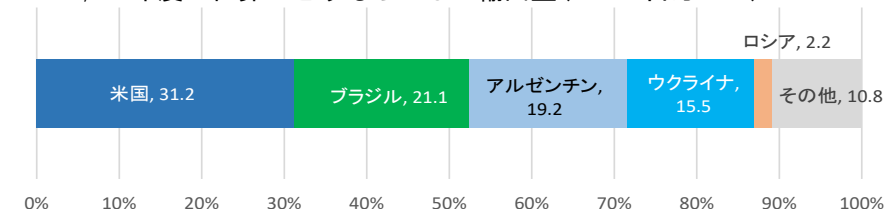
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,119.7	1,119.0	1,204.6	6.4	7.6
消費量	1,135.6	1,133.6	1,192.1	5.6	5.2
うち飼料用	715.7	724.8	747.2	1.1	3.1
輸出量	172.3	176.6	203.5	1.6	15.2
輸入量	167.8	187.6	183.4	▲ 0.4	▲ 2.2
期末在庫量	306.5	291.9	304.4	2.7	4.3
期末在庫率	27.0%	25.7%	25.5%	0.1	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 November 2021)

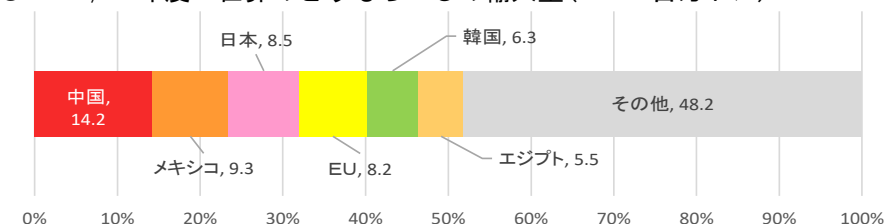
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,204.6 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (203.5 百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (183.4 百万トン)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積増、単収上方修正で生産量史上第２位、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、単収がネブラスカ州、ミネソタ州等で前月予測から上方修正され、全米平均単収が史上最高の 11.11 トン/ヘクタールとなったことから、前月予測から 1.1 百万トン上方修正され、前年度より 6.7%増の 382.6 百万トンと 2016/17 年度に次ぐ史上第２位の見込み。「Crop Progress」(2021.11.15)によれば、収穫期の天候におおむね恵まれ、11 月 14 日現在の主要 18 州における収穫進捗率は、91%と前年度同期（94%）より遅れているものの、過去５年平均（86%）より進んでいる。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、９月から１０月にかけてのエタノール生産の増加データを反映し、エタノール向け需要が前月予測から 1.3 百万トン上方修正されたことにより、前年度より 2.2%増の 313.2 百万トンの見込み。新穀の収穫に伴い、とうもろこし価格が下落した一方で、ガソリン価格が高騰したことからエタノール製造の-marginの高まりや夏までのとうもろこし価格高騰時のエタノール生産の減少に伴う在庫の減少の反動によるエタノール生産の増加が要因。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の輸出量となった前年度より 9.2%減の 63.5 百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高(2021 年 1 月 7 日～11 月 4 日)は、57.2 百万トンであり、内訳は中国（17.0 百万トン）、メキシコ（13.1 百万トン）、日本（10.0 百万トン）、コロンビア（3.2 百万トン）、韓国（3.1 百万トン）の順である。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、需要量の上方修正が供給量の上方修正を上回ったことにより、前月予測から 0.2 百万トン下方修正されたものの、前年度より 20.8%増の 37.9 百万トンの見込み。なお、期末在庫率は 10.1%で依然として低水準の見込み。

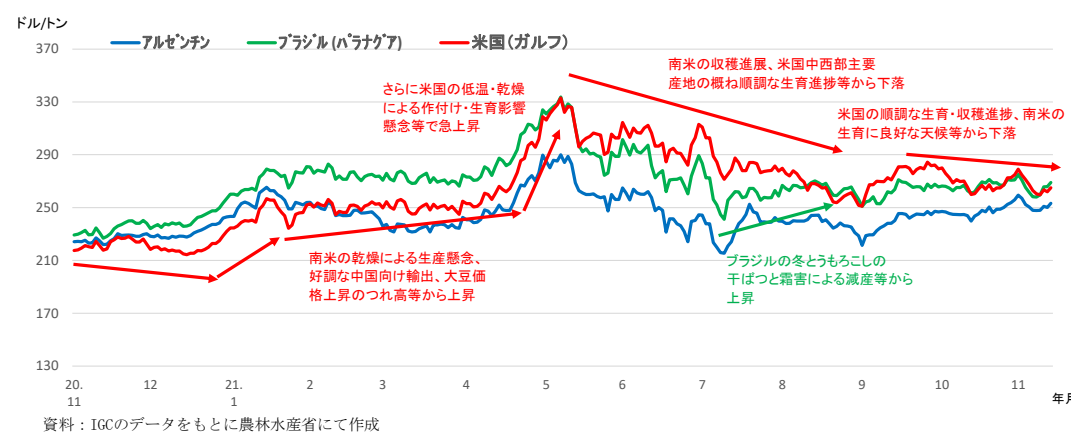
とうもろこし－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.0	358.5	382.6	1.1	6.7
消費量	309.6	306.5	313.2	1.3	2.2
うち飼料用	149.9	142.3	143.5	-	0.9
エタノール用等	123.4	127.7	133.4	1.3	4.4
輸 出 量	45.1	69.9	63.5	-	▲ 9.2
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	-	3.2
期末在庫量	48.8	31.4	37.9	▲ 0.2	20.8
期末在庫率	13.7%	8.3%	10.1%	▲ 0.1	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.31	34.43	-	3.4
単収(t/ha)	10.51	10.76	11.11	0.03	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



< ブラジル > 収穫面積増、単収増で生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より37.2%増の118.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

CONAB月例報告(2021.11.11)によれば、現在作付け中の2021/22年度の夏とうもろこしの生産量は、作付面積及び単収の増加により、前年度比15.7%増の28.6百万トンの見込み。一方、大豆収穫後、2022年に作付けされる冬とうもろこしの生産量は、干ばつ・霜害の影響で大幅減産となった前年度に比べ41.4%増の88.1百万トンが見込まれ、合計では前年度比34.1%増の116.7百万トンで史上最高の見込み。(P.21 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照)。

11月上旬から中旬にかけてブラジル中西部から北東部で広く降雨が継続し、初期生育は順調である。一方、南部では乾燥・降雨不足となった。夏とうもろこしの作付進捗率は、南部のパラナ州で11月16日現在100%、南部のリオ・グランデ・ド・スール州で11月11日現在82%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より1.4%増の73.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、大幅減産となった前年度より145.7%増の43.0百万トンで史上最高の見込み。なお、2020/21年度の輸出量は、供給減を背景に10月までの貿易実績に基づき前月予測から2.5百万トン下方修正され、17.5百万トンと2015/16年度以降最小の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年10月の輸出量は1.8百万トンで、前年同月(5.0百万トン)に比べ、64.2%減。2021年1～10月の輸出量は14.6百万トンで、前年同期(24.8百万トン)と比べ41.2%減となっている。内訳は、1位がイラン2.5百万トン、2位がエジプト1.7百万トン、3位がスペイン1.6百万トンとなっている。

とうもろこしーブラジル

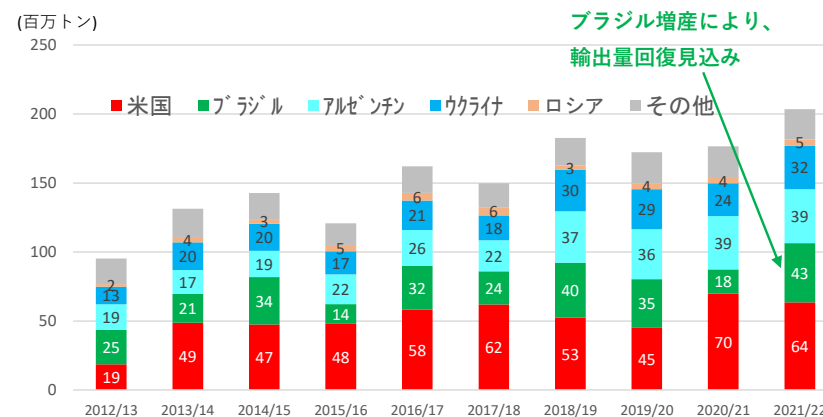
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	102.0	86.0	118.0 (117.4)	-	37.2	
消 費 量	68.5	72.0	73.0 (76.2)	-	1.4	
うち飼料用	58.5	61.0	62.0 (55.7)	-	1.6	
輸 出 量	35.2	17.5	43.0 (40.0)	-	145.7	
輸 入 量	1.7	3.5	1.7 (0.5)	-	▲ 51.4	
期末在庫量	5.2	5.2	8.9 (6.4)	0.5	70.7	
期末在庫率	5.0%	5.8%	7.7% (5.5%)	0.4	1.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.83	20.80 (20.60)	-	4.9	
単収(t/ha)	5.51	4.34	5.67 (5.70)	-	30.6	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)
IGC「Grain Market Report」(21 October 2021)

図: 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2021.11.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 面積上方修正で生産量史上最高、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、単収は低いものの、高温・乾燥を避け降雨の多い2月に開花期を迎える遅植えとうもろこしの作付け見込みの増加により、単収は下方修正されたものの、収穫面積が上方修正されたことから、前月予測から1.5百万トン上方修正され、前年度より7.9%増の54.5百万トンと史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2021.11.18）によれば、最近の降雨がとうもろこしの作付けを支援。作付進捗率は29%で、過去5年平均より9ポイント遅れている。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.6%増の14.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸出量は、生産量の上方修正や価格競争力の高さを背景に、前月予測から1.0百万トン上方修正され、前年度より1.3%増の39.0百万トンと史上最高の見込み。また、2020/21 年度の実輸出量は、10月までの貿易実績を元に前月予測から1.0百万トン上方修正され、38.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年1～9月の輸出量は31.5百万トンで、前年同期（32.0百万トン）より1.6%減。内訳は、1位がベトナム5.2百万トン、2位が韓国3.4百万トン、3位がエジプト3.1百万トン。7月26日に180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に引き続き注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、その後継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	50.5	54.5 (63.3)	1.5	7.9
消 費 量	13.5	14.0	14.5 (22.6)	-	3.6
うち飼料用	9.5	10.0	10.5 (17.6)	-	5.0
輸 出 量	36.3	38.5	39.0 (37.0)	1.0	1.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	3.6	1.6	2.6 (9.0)	-	62.3
期末在庫率	7.3%	3.1%	4.9% (15.1%)	▲ 0.1	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.30	6.40	6.80 (8.30)	0.30	6.3
単収(t/ha)	8.10	7.89	8.01 (7.63)	▲ 0.14	1.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)
IGC 「Grain Market Report」(21 October 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの生育風景
(11月6日撮影)
9月中旬に作付け。生育は良好。



< 中国 > 収穫面積増、単収増で生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より4.7%増の273.0百万トンと史上最高の見込み。

中国糧油情報センター（2021.11.5）によれば、10月は東北地区の大部分は晴天に恵まれ、収穫・乾燥に有利であった。中国中央气象台（2021.11.5）によれば、11月上旬現在、東北地区の春とうもろこし、河南省等の夏とうもろこしの収穫はすでに終了。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より3.2%増の294.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より11.9%減の26.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸入量は、貿易実績を元に前月予測から1.5百万トン上方修正され、29.5百万トンと史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～9月の輸入量は24.9百万トンで、前年同期の3.7倍となり、前年の年間輸入量の2.2倍。内訳は、米国産17.6百万トン（71%）、ウクライナ産7.2百万トン（29%）で、前年同期はウクライナ産が74%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報9月号」によると、9月の国内流通価格は、新穀とうもろこしは豊作見込みで、かつ大量の輸入により供給量は十分である一方、飼料用需要の弱まり、とうもろこし深度加工企業の稼働率の低下により、2,780元/トンと前月（2,820元/トン）から下落したものの、依然として、高水準で推移した。今後の見通しについては、飼料用と工業用需要は全体的に低迷しており、国内市場価格は弱含みとされている。一方、9月の外国産価格は2,500元/トンと前月（2,560元/トン）から下落した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

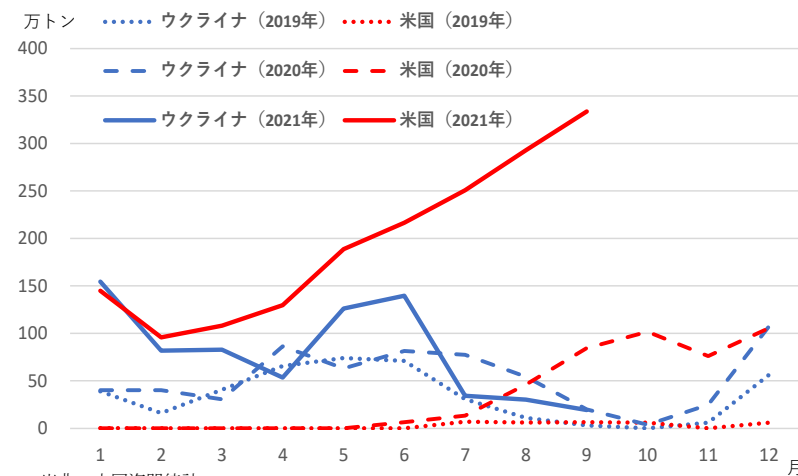
とうもろこしー中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	260.8	260.7	273.0	(272.8)	-	4.7
消 費 量	278.0	285.0	294.0	(296.2)	-	3.2
うち飼料用	193.0	203.0	214.0	(192.0)	-	5.4
輸 出 量	0.0	0.0	0.0	(0.1)	-	-
輸 入 量	7.6	29.5	26.0	(16.5)	-	▲ 11.9
期末在庫量	200.5	205.7	210.7	(186.9)	1.5	2.4
期末在庫率	72.1%	72.2%	71.7%	(63.1%)	0.5	▲ 0.5
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00	(42.90)	-	1.8
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.50	(6.36)	-	2.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)
IGC「Grain Market Report」(21 October 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

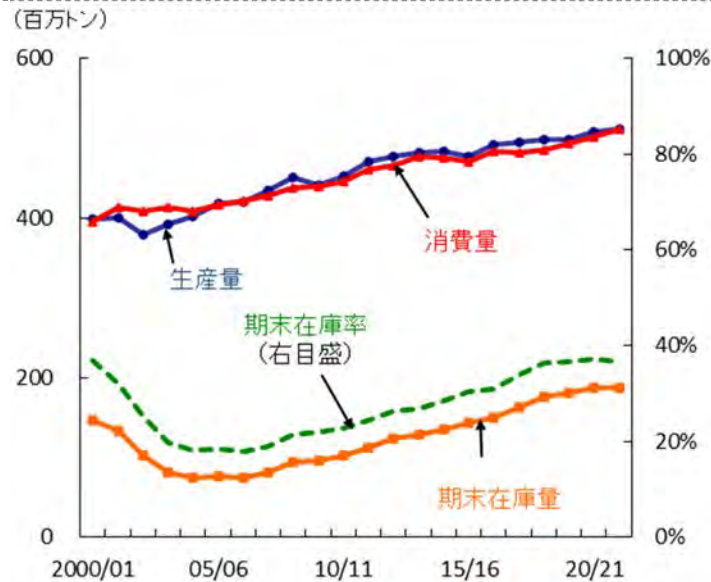
消費量 前年度比  前月比 

・パキスタン等で下方修正されたことから前月から下方修正されたものの史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・中国等で下方修正されたことから前月から下方修正されたものの史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2021.11.9）をもとに農林水産省にて作成

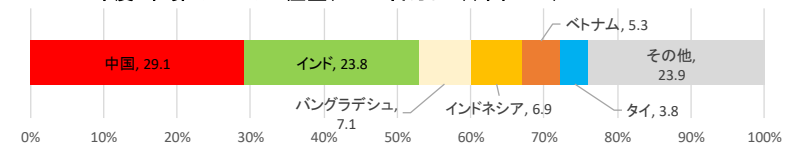
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

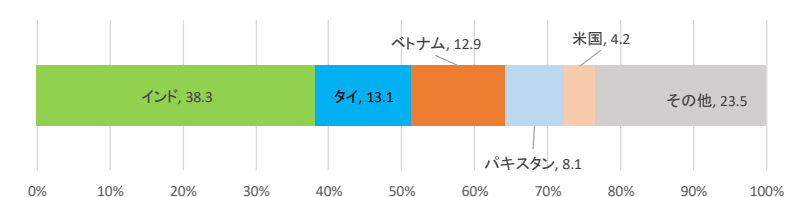
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	498.9	507.3	511.7	1.0	0.9
消費量	493.8	501.6	511.3	▲ 1.0	1.9
輸出量	43.4	49.6	49.7	▲ 0.1	0.2
輸入量	42.3	46.8	47.4	0.6	1.2
期末在庫量	181.8	187.5	187.9	4.3	0.2
期末在庫率	36.8%	37.4%	36.8%	0.9	▲ 0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 November 2021)

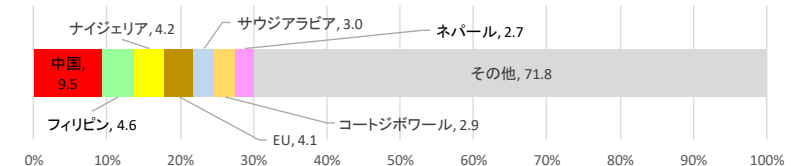
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(511.7百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(49.7百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(47.4百万トン)



（２）国別のコメの需給動向

< 米国 > 史上最高の単収により生産量が上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、単収が引き上げられ史上最高となったことから上方修正されたものの、収穫面積が減少していることにより、対前年度比 14.9%減の 6.2 百万トンの見込み。中・短粒種の生産量はコメ全体の約 25%を占める。

同「Rice Outlook」（2021.11.12）によれば、レイジアナ州及びテキサス州の一部を除いて収穫は事実上終了したと見られる。

同「Crop Production」（2021.11.9）によれば、単収は前年度を上回り史上最高となり、州別ではカリフォルニア州、アーカンソー州、ミシシッピ州及びミズーリ州で史上最高となる見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、消費量は前月予測からわずかに上方修正され、対前年度比 3.5%減の 4.7 百万トンの見込み。輸出量は、他の競合国と比べ価格が高いため、前月予測からわずかに下方修正され、対前年度比 4.0%減の 2.9 百万トンの見込み。輸入量は、コンテナ不足や海上運賃の高騰が続いていることによる輸入ペースの減速により、前月予測からわずかに下方修正されたものの、対前年度比 2.8%増の 1.1 百万トンの見通し。

同「Rice Outlook」（2021.11.12）によれば、11月1日までの週の地中海向けカリフォルニア米（1等、碎米4%混入、国内精米）の価格は、前月からの変更はなく、2009年6月以来の高値である 1,125 ドル/トン。11月2日までの週のイラク向け長粒種（2等、碎米4%混入）の価格については、7月20日までの週以降横ばいの 600 ドル/トンとなっている（P18の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

コメー米国

主に中・短粒種はカリフォルニア州、長粒種はミシシッピ川沿いで栽培
全米のコメ生産に占めるカリフォルニア州の生産シェアは約 2 割

（単位：百万精米トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.2	0.1	▲ 14.9
消費量	4.6	4.9	4.7	0.0	▲ 3.5
輸出量	3.0	3.0	2.9	▲ 0.0	▲ 4.0
輸入量	1.2	1.1	1.1	▲ 0.0	2.8
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	0.1	▲ 20.1
期末在庫率	12.0%	17.8%	14.7%	0.6	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	-	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.70	0.15	1.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（9 November 2021）

写真：アーカンソー州でのコメの収穫風景



10月中旬、この地域では、大型の収穫機を使用して米の収穫作業が行われている。

< インド > 消費量の下方修正などにより期末在庫量が史上最高

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.2%増の 125.0 百万トンで史上最高の見込み。同 USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.10.26)によれば、10月下旬時点、モンスーンが全て通過し乾燥した気候となったインドでは、カリフ作の収穫が進み、ラビ作の播種準備が開始された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測から 1.5 百万トン下方修正されたものの、対前年度比 3.5%増の 103.5 百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸出量は、豊富な在庫や低廉な価格により前月予測から 0.5 百万トン上方修正されたものの、対前年度比 5.8%減の 19.0 百万トンの見込みで史上2番目の高水準。なお、2020/21年度の輸出量は、0.2 百万トン上方修正され 20.2 百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の期末在庫量は、2021年10月1日時点のインド政府の公的備蓄水準が反映されたことで 3.5 百万トン上方修正され、対前年度比 6.9%増の 38.5 百万トンで史上最高の見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2021.11.12)によれば、低廉なコメ価格やバルク船による輸送から、タイ産米の価格が高いことやコンテナの不足・遅延と比較して有利であったことにより、2020年にはサブサハラ・アフリカ諸国への輸出が飛躍的に拡大した。2021年も引き続き同地域の輸入量の過半数をインドが占めると見られている。

インド商務省の輸出量データ(2021年11月15日抽出)によれば、2021年4月～9月の累積輸出量は 1,014.5 万トンであり、輸出量の多い国の上位はバングラデシュ(125.3万トン)、ベナン(68.8万トン)、中国(67.3万トン)になっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.11.12)によれば、インド産米(碎米5%混入)の11月2日までの週の価格は10月5日までの週より5ドル下落して350ドル/トンとなり、パキスタンの同時期の同等クラスの輸出価格360/トンと比較しても引き続いてアジアの中で最も競争力のある価格になっている(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	118.9	122.3	125.0	(124.5)	-	2.2
消 費 量	102.0	100.0	103.5	(105.0)	▲ 1.5	3.5
輸 出 量	12.5	20.2	19.0	(16.5)	0.5	▲ 5.8
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	33.9	36.0	38.5	(36.5)	3.5	6.9
期末在庫率	29.6%	30.0%	31.4%	(30.1%)	3.1	1.5

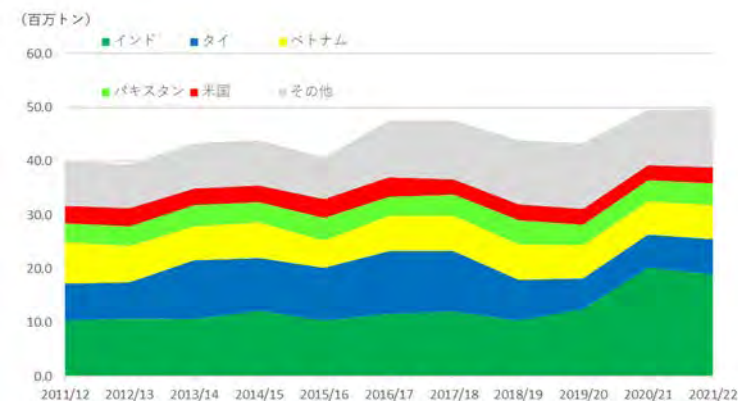
(参考)

収穫面積(百万ha)	43.66	45.00	45.50	(44.50)	-	1.1
単収(もみt/ha)	4.08	4.08	4.12	(2.80)	-	1.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)

IGC 「Grain Market Report」(21 October 2021) (単収は精米t/ha)

図: 世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2021.11.9)をもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 輸入量が上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

国家糧油情報センター（2021.11.5）等によれば、10月、全国のほとんどの農産地の天候条件は比較的に良好で、全体的に中晩稲の乳熟・成熟と収穫・乾燥に有利だった。中国中央气象台（2021.11.5）によれば、11月上旬現在、二期作早稲及び一期作稲は収穫済み。江蘇、安徽、浙江、福建、江西、湖南等の晩稲は基本的に収穫済みで、広西南部、広東南部、海南等地区的晩稲は乳熟から成熟・収穫期に入っている。国家糧食及び物資備蓄局の統計によると、10月25日時点、主産地における各種穀物関連企業は中晩稲インディカ粳を累計して前年同期比92.3万トン増の851.5万トン買付、そのうち、国営企業の買付は270万トンで、買付進捗は前年同期比より速かった。また、安徽、江西、湖北、湖南等は2021年の中晩稲の最低買付価格政策の実施計画を開始した。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は0.2百万トン下方修正されたものの、対前年度比2.9%増の154.9百万トンで史上最高の見込み。

USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、低価格の精米や碎米への強い需要により0.5百万トン上方修正され、前年度と同じ4.5百万トンの見込み。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報9月号」によれば、農家販売価格は、9月、早稲インディカ粳は増産、中晩稲インディカ粳も豊作見込みであるが、コメ加工業者の新穀粳の仕入れ意欲は高くなく、早稲インディカ粳と中晩稲インディカ粳価格は若干下落した。東北部の新穀ジャポニカ粳の水分含有量は比較的高く、かつ川下の需要も低迷していることからジャポニカ粳の価格に変動はなかった。

一方、卸売価格については、コメの末端需要は依然として低迷しており、低価格米の輸入量も多いことから国内の米価格は引き続き小幅に下落した。2021年9月の全国平均品種別米卸売価格はそれぞれ早稲インディカ米 3,800 元/トン、晩稲インディカ米 4,160 元/トン、一期作ジャポニカ米 3,960 元/トンになっている。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	146.7	148.3	149.0 (150.4)	-	0.5	
消 費 量	145.2	150.6	154.9 (151.3)	▲ 0.2	2.9	
輸 出 量	2.6	2.2	2.1 (2.6)	▲ 0.3	▲ 5.4	
輸 入 量	2.6	4.5	4.5 (3.4)	0.5	-	
期末在庫量	116.5	116.5	113.0 (109.2)	1.0	▲ 3.0	
期末在庫率	78.8%	76.2%	72.0% (70.9%)	0.9	▲ 4.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	30.00 (30.11)	-	▲ 0.3	
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.10 (5.00)	-	0.9	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)

IGC「Grain Market Report」(21 October 2021) (単収は精米t/ha)

写真：黒龍江省水稻圃場の収穫風景



10月中旬、当該圃場では、機械化収穫方式により水稻の収穫作業を行った。水稻粳は乾燥済みで、売却時期を待っている状態。

< タイ > 作付面積拡大予測の一方で洪水が発生

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく対前年度比6.8%増の18.9百万トンの見込み。2021/22年度(2022年1月～同年12月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比3.4%増の19.5百万トンの見込み。

タイ農業経済局「雨季作米の生産予測 2021」(2021.10.27更新)によれば、籼米販売価格が高いため、コメの作付面積が前年より増加する見通しと発表。その一方で、タイ農業協同組合省農業災害モニタリング・解決センターの9月1日～10月29日分の報告では、洪水被害を受けた稲作用地が約58万ヘクタールに上ると発表された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比16.1%増の6.5百万トンとなることでベトナムの輸出量(6.4百万トン)を上回り、インドに次ぐ世界第2位のコメ輸出国となる見通し。一方、2020/21年度の輸出量は対前年度比1.8%減の5.6百万トンになる見通し。

タイ商務省は、2021年の年間輸出量が6.0百万トンと見込んでいる。他方、タイ米輸出業者協会は、前年度並みの5.7百万トンになると見込んでいる。

タイ米輸出業者協会によれば、2021年1月から9月までの輸出量は、前年同期比6.6%減少の381.7万トン。輸出先国は、南アフリカ(56.6万トン)、米国(39.0万トン)、中国(34.9万トン)の順となっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.11.12)によれば、11月1日までの週のタイ産米(長粒、2等丸米)の輸出価格は、10月後半にかけての更なるバツ安を主な要因として、10月4日までの週より6ドル/トン下落し391ドル/トンとなっている。

コメ・タイ

夏の雨季作と冬の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	17.7	18.9	19.5 (19.5)	-	3.4	
消費量	12.3	12.7	13.0 (11.9)	-	2.4	
輸出量	5.7	5.6	6.5 (7.7)	-	16.1	
輸入量	0.3	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.0	4.7	4.9 (7.2)	-	4.2	
期末在庫率	22.1%	25.9%	25.3% (36.9%)	-	▲ 0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.51	10.50 (10.53)	-	▲ 0.1	
単収(もみt/ha)	2.70	2.72	2.81 (1.85)	-	3.3	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 November 2021)

IGC「Grain Market Report」(21 October 2021) (単収は精米t/ha)

写真: 洪水により浸水したタイ中部のspan>ブリー県シープラチャン市の稲作圃場



10月下旬、過去10年で最大の洪水がタチン川で発生し浸水した圃場。

< ベトナム > 秋冬作の収穫が始まるもコメ価格が高止まり

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく対前年度比 1.1%増の 27.4 百万トンの見込み。2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は前月からの変更はなく、対前年度比 1.2%減の 27.1 百万トンの見込み。

ベトナム農業・農村開発省によれば、2021 年の生産量のうち冬春作は 20.6 百万ト、夏秋作は 12.6 百万トになる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、0.5%増の 6.2 百万トンの見込み。また 2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.2%増の 6.4 百万トンの見込み。2020/21 年度の輸入量は、新型コロナウイルスの拡大によりベトナム国内でのコメ移動が制限されたことで隣国からの輸入が増加したこと、前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、前年度の 4 倍を超える 1.7 百万トンの見込み。2021/22 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 69.7%減の 0.5 百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2021 年 1 月から 10 月の間のコメの輸出量は 518.3 百万トンとなり、上位をフィリピン(210.7 万トン)、中国(92.6 万トン)、ガーナ(51.7 万トン)が占めている。

USDA「Rice Outlook」(2021.11.12)によれば、ベトナム産米(長粒種、5%碎米混入)の 11 月 2 日までの週の価格は、南部で秋冬作の収穫が始まったにもかかわらず、1ヶ月前と変わらずに推移し、10 月 5 日までの週と同じ 435 ドル/トンとなった。ベトナム産米の価格は、同じグレードや品質の競合するアジア諸国のコメの中で最も高くなっている。

ベトナム税関総局によれば、ジャポニカ米の 2021 年 1 月～9 月の輸出量は、対前年同期比 33.8%減の 10.9 万トンになっている。

コメベトナム

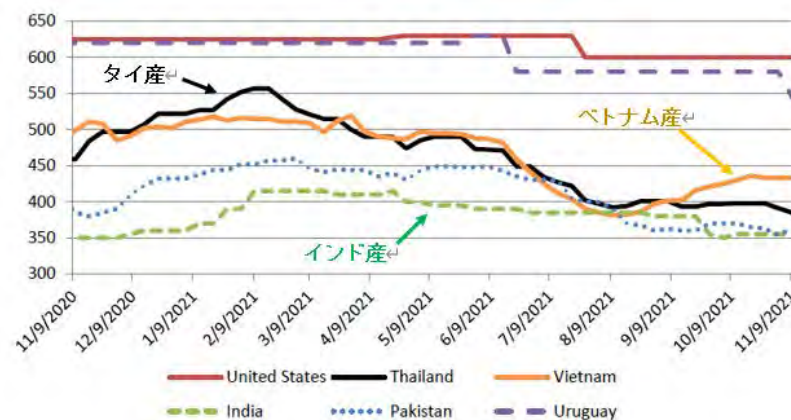
北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.4	27.1 (28.3)	-	▲ 1.2
消費量	21.3	21.5	21.4 (22.6)	0.1	▲ 0.7
輸出量	6.2	6.2	6.4 (6.4)	-	3.2
輸入量	0.4	1.7	0.5 (0.6)	-	▲ 69.7
期末在庫量	1.2	2.6	2.4 (3.3)	0.3	▲ 5.8
期末在庫率	4.3%	9.3%	8.7% (11.4%)	0.9	▲ 0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.38	7.36	7.35 (7.45)	-	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	5.88	5.96	5.90 (3.80)	-	▲ 1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)
IGC「Grain Market Report」(21 October 2021) (単収は精米t/ha)

図: 長粒種の FOB 価格の推移 (ベトナム産の価格競争力が低下)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2021.11.9)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 

・インド等で上方修正も、アルゼンチン、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

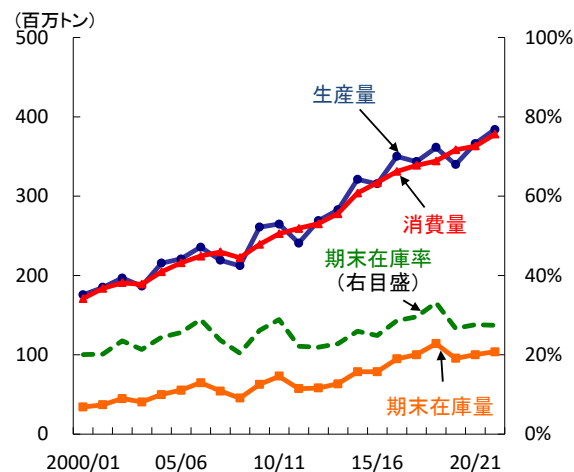
消費量 前年度比  前月比 

・インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸血量 前年度比  前月比 

・ブラジル等で上方修正も、米国、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2021. 11. 9）をもとに農林水産省で作成

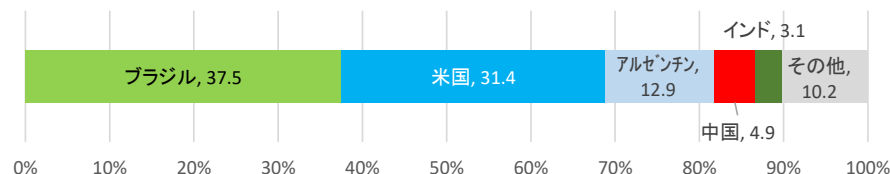
◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

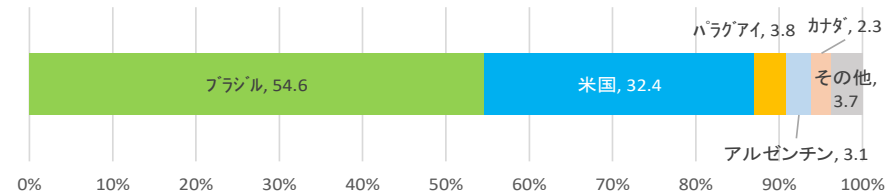
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	339.9	366.2	384.0	▲ 1.1	4.9
消費量	358.4	363.1	378.0	0.8	4.1
うち搾油用	312.5	316.0	328.8	0.4	4.0
輸血量	165.1	164.8	172.1	▲ 1.0	4.4
輸入量	165.0	166.2	169.8	▲ 0.8	2.1
期末在庫量	95.5	100.1	103.8	▲ 0.8	3.7
期末在庫率	26.6%	27.6%	27.5%	▲ 0.3	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（9 November 2021）

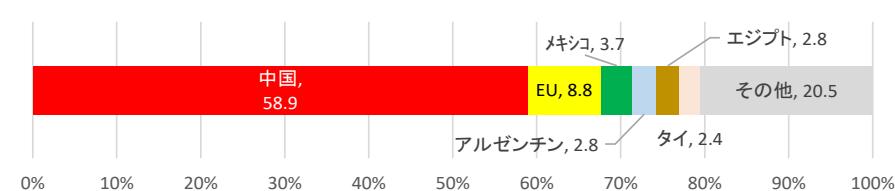
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (384.0 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸血量 (172.1 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (169.8 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 単収下方修正も生産量は史上第2位、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、インディアナ州、アイオワ州、オハイオ州、カンザス州等での単収の下方修正から、前月予測から0.6百万トン下方修正されたものの、前年度より4.9%増の120.4百万トンと2018/19年度に次ぐ史上第2位の見込み。収穫期前半は平年を上回る収穫ペースだったものの、一部の州での10月の豪雨により収穫が遅れたこともあり、「Crop Progress」(2021.11.15)によれば、11月14日現在の主要18州における収穫進捗率は、92%と前年度同期(95%)及び過去5年平均(93%)より遅れている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、種子用消費が前月予測から下方修正されたことから前月予測から0.1百万トン下方修正され、前年度より3.0%増の62.8百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、世界的な大豆輸入需要の減退と10月までの貿易実績を反映し、前月予測から1.1百万トン下方修正され、史上最高の輸出量となった前年度より9.5%減の55.8百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～11月4日)は、34.1百万トンであり、内訳は中国(17.2百万トン)、メキシコ(3.8百万トン)、エジプト(1.9百万トン)、日本(1.7百万トン)、インドネシア(1.5百万トン)の順。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、輸出量を加えた需要量の下方修正が供給量の下方修正を上回ったことから前月予測から0.5百万トン上方修正され、前年度より32.7%増の9.3百万トンの見込み。期末在庫率は7.8%で依然として低水準の見込み。

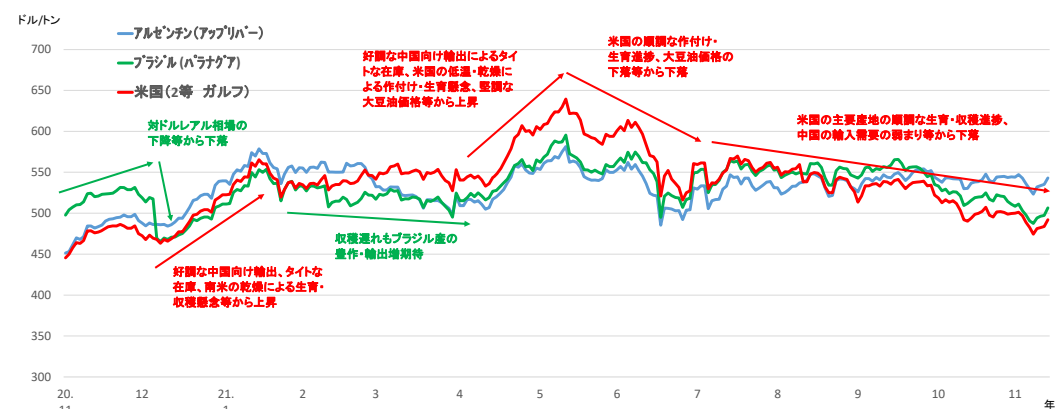
大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	96.7	114.8	120.4	▲ 0.6	4.9
消費量	61.9	60.9	62.8	▲ 0.1	3.0
うち搾油用	58.9	58.3	59.6	－	2.3
輸 出 量	45.7	61.7	55.8	▲ 1.1	▲ 9.5
輸 入 量	0.4	0.5	0.4	－	▲ 24.1
期末在庫量	14.3	7.0	9.3	0.5	32.7
期末在庫率	13.3%	5.7%	7.8%	0.5	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.43	34.98	－	4.6
単収(t/ha)	3.19	3.43	3.44	▲ 0.02	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 収穫面積増で生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.3%増の144.0百万トンとなり、史上最高の見込み。また、2020/21年度の生産量は、前月予測から1.0百万トン上方修正され、138.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.11.11)によれば、2021/22年度の生産量は、前年度より3.4%増の142.0百万トンで史上最高の見込み。

11月上旬から中旬にかけてブラジル中西部から北東部で広く降雨が継続し、初期生育は順調である。一方、南部では乾燥・降雨不足となった。最大生産州である中西部マット・グロッソ州の作付進捗率は11月12日現在99.5%。南部のパラナ州の作付進捗率は11月16日現在95%。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加から、前年度より1.9%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前年度の生産量が1.0百万トン上方修正されたことに伴う供給量の増加により前月予測から1.0百万トン上方修正され、前年度より15.1%増の94.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年10月の輸出量は3.3百万トンで、前年同月(2.4百万トン)に比べ35.9%増。2021年1～10月の輸出量は80.8百万トンで、前年同期(81.3百万トン)に比べ0.6%減となっている。内訳は、1位が中国で56.2百万トン、2位がスペインで3.5百万トンとなっている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2022年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2021/22年度	2021年												2022年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												収穫 28.6(百万t)								
冬とうもろこし	作付 4.5(百万ha)												作付 16.5(百万ha)								
大豆	マット・グロッソ州、パラナ州等												収穫 142.0(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート(2021.11.11)

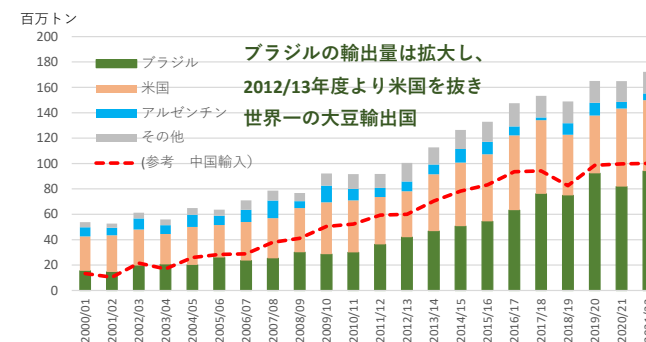
大豆ーブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	128.5	138.0	144.0 (142.0)	-	4.3	
消 費 量	49.4	49.4	50.4 (49.5)	-	1.9	
うち搾油用	46.7	46.8	47.7 (46.9)	-	2.0	
輸 出 量	92.1	81.7	94.0 (92.1)	1.0	15.1	
輸 入 量	0.6	1.0	0.7 (0.3)	-	▲ 36.3	
期末在庫量	20.0	28.0	28.3 (7.9)	-	1.1	
期末在庫率	14.1%	21.3%	19.6% (5.6%)	▲ 0.1	▲ 1.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	36.90	38.90	40.40 (39.92)	-	3.9	
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.56 (3.56)	-	0.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)
IGC「Grain Market Report」(21 October 2021)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.11.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 収穫面積は下方修正も増産見通し、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、とうもろこし価格に比べ大豆価格の下落が大きいこと、大豆の輸出税率が高いことなどで農家の収益が劣ることから収穫面積が下方修正され、前月予測から1.5百万トン下方修正されたものの、単収の増加から前年度より7.1%増の49.5百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2021.11.18）によれば、最近の降雨が大豆の作付けに好都合。特にコルドバ州、エントレ・リオス州で最も作付けが進展している。作付進捗率は29%で、過去5年平均より3ポイント遅れている。なお、ラニーニャ現象の発生に伴う乾燥天候の影響に注意が必要である。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.2%増の49.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より3.1%増の5.4百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～9月の輸出量は5.0百万トンで、前年同期（6.6百万トン）より24.7%減。内訳は、1位が中国344万トン、2位がエジプト60万トンとなっている。7月26日に180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に引き続き注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2021年1月以降、輸出税を大豆33%、大豆粕及び大豆油31%に設定し、現在も継続中。

写真：北部サンタフェ州の大豆発芽後の生育風景
(11月10日撮影)



大豆－アルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	48.8	46.2	49.5 (47.0)	▲ 1.5	7.1
消 費 量	45.9	47.4	49.4 (47.8)	－	4.2
うち搾油用	38.8	40.2	42.0 (41.5)	－	4.6
輸 出 量	10.0	5.2	5.4 (6.3)	▲ 1.0	3.1
輸 入 量	4.9	4.8	4.8 (4.8)	0.1	▲ 0.4
期末在庫量	26.7	25.1	24.6 (3.6)	▲ 1.1	▲ 1.8
期末在庫率	47.7%	47.6%	44.9% (6.7%)	▲ 1.1	▲ 2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.70	16.47	16.40 (16.40)	▲ 0.50	▲ 0.4
単収(t/ha)	2.92	2.81	3.02 (2.87)	－	7.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(9 November 2021)

IGC「Grain Market Report」(21 October 2021)

< 中国 > 収穫面積減で減産見通し、輸入量は1億トン

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.1%減の19.0百万トンの見込み。

中国糧油情報センター（2021.11.5）によれば、10月は東北地区の大部分は晴天に恵まれ、収穫・乾燥に有利であった。中国中央气象台（2021.11.5）によれば、11月上旬現在、収穫はすでに終了。

【需給動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な搾油用需要から前年度より5.5%増の117.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、米国、アルゼンチンの輸出量の下方修正に伴い、前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より0.2%増の100.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～9月の輸入量は74.0百万トンと、前年同期比で0.7%減。内訳は、ブラジル産49.0百万トン（66%）、米国産21.8百万トン（29%）。なお、9月の輸入量は6.9百万トンで、前年同月（9.8百万トン）より29.8%減。ブラジル産が5.9百万トンと86%を占めた。今後は、米国の収穫に伴い、輸入先が徐々に米国産に切り替わるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報9月号」によると、9月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、新穀大豆が市場で販売され始めたが、旧穀大豆との価格差が基本的になく、前月（6,100元/トン）から横ばいの6,100元/トンで依然高水準である。今後の国内大豆価格は新穀大豆の供給拡大により短期的に下落するとされている。一方、9月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,600元/トンと前月（4,600元/トン）から横ばいで推移した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

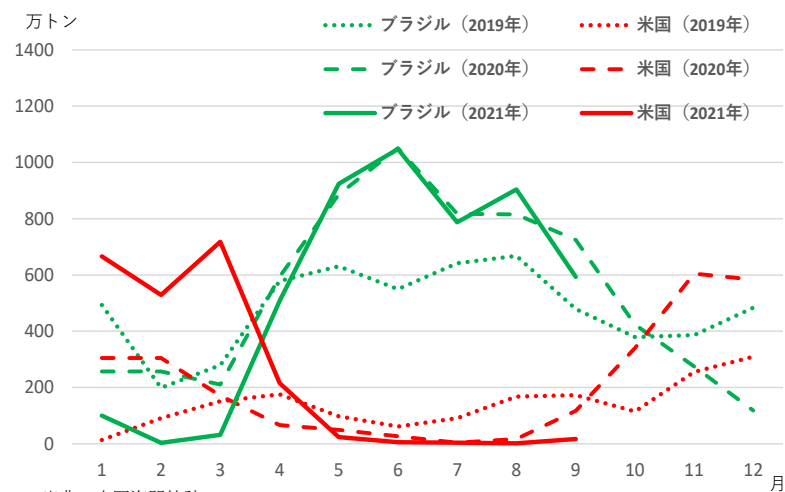
大豆—中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.1	19.6	19.0 (18.7)	—	▲ 3.1
消費量	109.2	111.6	117.7 (119.0)	—	5.5
うち搾油用	91.5	93.0	98.0 (100.0)	—	5.4
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	—	42.9
輸 入 量	98.5	99.8	100.0 (100.3)	▲ 1.0	0.2
期末在庫量	26.8	34.5	35.7 (32.6)	▲ 0.2	3.5
期末在庫率	24.5%	30.9%	30.3% (27.4%)	▲ 0.2	▲ 0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.30	9.87	9.60 (9.35)	—	▲ 2.7
単収(t/ha)	1.95	1.99	1.98 (1.99)	—	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2021)
IGC「Grain Market Report」(21 October 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海關統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ > 西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、生育期間の西部カナダでの乾燥の影響による単収の減少に伴い、前年度より7.2%減の5.9百万トンの見込み。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2021.11.19)によれば、収穫面積は前年度より4.8%増の一方、単収は西部カナダの乾燥の影響からマニトバ州等で大幅に減少することから、生産量は前年度より7.4%減の5.9百万トンの見込み。生産量の多いカナダ東部の大豆の収穫が降雨過多で遅れており、11月末までに終了しないとみられる。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.2%減の2.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より12.0%減の4.0百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月～9月の輸出量は3.5万トンで、国別では、スペイン(2.1万トン)、ノルウェー(1.2万トン)、米国(0.2万トン)の順。

大豆ーカナダ

(単位: 百万トン)

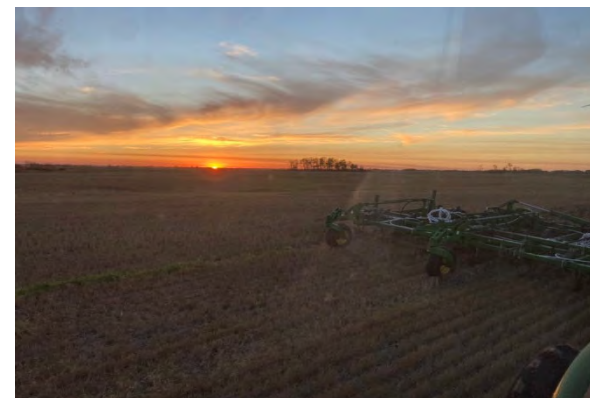
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.1	6.4	5.9 (5.9)	-	▲ 7.2
消費量	2.6	2.5	2.4 (2.3)	-	▲ 3.2
うち搾油用	1.8	1.6	1.7 (1.8)	-	0.5
輸出量	3.9	4.5	4.0 (4.0)	-	▲ 12.0
輸入量	0.3	0.5	0.5 (0.4)	-	▲ 3.1
期末在庫量	0.6	0.5	0.5 (0.3)	-	0.4
期末在庫率	9.7%	6.9%	7.5% (3.9%)	-	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.10 (2.14)	-	2.9
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.81 (2.75)	-	▲ 9.9

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(9 November 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 November 2021)

写真: 西部マニトバ州の大豆収穫後のほ場風景
(10月19日撮影)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2021 年 11 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020 年 1 月 31 日付けで EU を離脱しました。英国の小麦に関する情報については小麦の EU27+英国のコーナーで取り扱います。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--